

第四回館山市議定会定例会會議錄（第二号）



一、昭和五十四年十二月十日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
三番 綱島 憲治	四番 横溝 功
五番 福原 勤	七番 古賀 礼四郎
八番 石井 昌治	九番 松下 正己
一〇番 穴戸 寿夫	一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一六番 押元 稔	一七番 黒川 平治
一八番 流山 源次郎	一九番 石井 輝久
二〇番 石井 武敏	二一番 吉田 勇治郎
二二番 藤田 益治	二三番 菊井 敏博
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安沢 徳順	二九番 安西 益男
三〇番 山口 康	

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

第一号より選挙管理委員会委員長、選挙管理委員会事務局書記長、監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和五十四年十二月十日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開

議 午前十時二分開議

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数二十八名、これより第四回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（石井 正君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の十二月五日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

七番議員古賀礼四郎君。

（七番議員古賀礼四郎君登壇）

○七番（古賀礼四郎君） 私は大きく分けて二つの件につき一般行政に対する質問をいたします。

まずその一つは、市営住宅の払い下げの件であります。

このことにつきましては、過去に四十九年九月及び五十年三月の定例議会において先聲議員からすでに質問されていて、四十九年のときの故本間市長は「市長個人の感情としては、長い間使ってもらった人に住宅の払い下げも考えたが、公的に建設省及び県の方で払い下げをしてはいけないとの通知を受けたので、私としては入居者の意に沿えず残念です」と回答されています。

また、五十年のときは現半澤市長で「公営住宅の建設は社会保障政策の重要な一環としてぜひ必要であり、今後はこれを中高層化していく、土地の高度利用と有効化を図りたい。具体的な計画については今後十分に検討してまいりたい」と答弁されております。

それ以降はこの件について当市議会で質疑されず今日に至っている次第です。

すなわち、市の方としては払い下げをせず、建て直していくという方針をとつてこられたわけですが、市民並びに市営住宅入居者には適切に告示されておりません。そこで私は改めて現在における、また今後の公営住宅に対する市当局の明快なる方針をお尋ねし、現入居者の人々に対しても将来の方向づけをしていただくために再び質問するものであります。

ひるがえつて、この件につき昭和五十年度末の全国的な調査によれば、地方自治体や住宅公社などによる公営住宅の建設は百四十万戸建てられ、そのうちの十三万戸が一般に払い下げになつております。当時の持ち家推進や払い下げた方が住宅の維持管理の面で行き届くといった理由で払い下げをする自治体も数多くあつ

たわけで、この件については各自治体で見解が異なり是非論が百出、また払い下げ基準もまちまちで全国的に統一する必要に迫られていました。

そこで、建設省住宅局では五十年十一月十七日に公営住宅払い下げ基準を制定し、都道府県知事に通達を出したわけでございます。その通達によれば、払い下げをしてもよい住宅の種類及び払い下げを許可する経過期間を定めてあり、またこのとき同時に公営住宅の分類を行い、その管理計画について明確にしておくように指示してあります。

さらにまた、この十二月四日に渡辺建設大臣は持ち家政策を推進するとの観点から、公団住宅の払い下げ方針を打ち出しており、もちろん公団住宅と市営住宅ではその設置の趣旨は異なりますが、持ち家推進の意味は変わりはないと思います。

さて、前置きが長くなりましたが、私のお尋ねしたい笠名住宅の件に入ります。

この住宅は四十四戸、木造平屋一戸建てのものばかりで、建築後二十年近く経過し、非常に老朽化しております。市の方針としては昨年度、今年度建てかえ中の那古住宅と同様に中高層化する計画ですが、現入居者の声はあくまで払い下げを願望しており、いままでも長い間希望を持ち楽しみにしていたのは、以前からある期間経過すればこの地区の住宅は払い下げになるという声があつたためで、いまになつて一変払い下げでなく建てかえという方針の変更は、市の行政に対する不信となつております。

また、この四十四戸の入居者は、将来払い下げになるとの見込みです。大半の家が私費で玄関、ふろ場、子供部屋などを増改

築しております。

そこで、以上を要約して質問いたします。

まず第一点としまして、現入居者にもそれぞれ異なつた家庭事情があります。長年同じ土地に住み込めばその土地に対し愛情がひとしお増し、また交遊関係も緊密の度を深め、さらに自分の土地を求める余裕ができて、居住年数が長くなればなるほどむずかしくなってくるのは当然でしょう。長年住みつき年をとつてネコの類ほどこでもよいから庭のある住宅に住みたいという人には、払い下げ地区として一區画に集めて入居者の願望にこたえる。また入居してからあまり年数のたつていない少人数の世帯の人には建てかえる新しい中高層住宅に入つてもらふという、すなわち分割方式はとれないものか。この点どのようにお考えになつてゐるか、市の方針を聞かせていただきたいと思ひます。

次に、第二点としまして、いよいよ明け渡し、取り壊しの際が到来、その期間は半年ぐらいと思ひますが、立ち退き先についてあつせんし、入居者の納得のいくめんどろをみるだけの計画と自信をお持ちであるか。すなわち四十四戸の入居者は、那古の住宅のときになされた一戸当たり数万円の立ち退き移転補償費だけでは断固明け渡しに應じられないと結束を固めております。この点につき十分の計画と補償面の工夫をどう立てておられるか、お尋ねいたします。

次に、第三点としまして、現在市の方では建てかへの方針をとつておられるが、市民と現入居者に対しては何も通知をしてありませんので、いつまでもひよつとしたら払い下げになるかもしれないという夢を抱かせ、マイホーム建設の時期を失ひ、ひいては

人生計画を狂わせる結果にもなることと思われれます。この際、市営住宅は払い下げなのか、払い下げないのか。また今後は全部建てかへにするのか、市の明確なる見解を示される時期にきてゐると存じます。引き続いて大賀住宅の問題も出てくるものと思われ市当局の考えをお聞かせ願ひます。

最後に、第四点としまして、最近はまだ地価並びに建築費が徐々に上昇をきたしてあり、低所得者にはますます自分の持ち家を求めにくい状況になつてきております。住みよい館山に永住を希望する者のために、市は開発公社とよく連携して不動産業者に先行する公有地の獲得にどのように努力しておられるか、現在国や県にいかように交渉されているか、具体的に実施されているならばお聞かせ願ひたいと存じます。

さて、大きな二つ目の件で鷹の島、沖の島の間の道路の舗装と環境保全の件に移ります。

鏡ヶ浦の海岸の環境保全と観光についてもたびたびの議会で質疑されているところですが、特にこの間の道路千三百六十メートルの舗装の件は、本年六月の定例議会でも通告質問されてゐます。この道路は、本年も夏前に市の方で補足的な整備をされ一応遊泳者が来島しても恥ずかしくない道となつておりましたが、去る二十号台風の影響で無惨に護岸用に使われていた大きな石が道の中央までころがり、また道路の土は海水に浸蝕されて大きな穴をつくつていて、現在では夜間は車の進入は危険な状態となつております。

市は、本年度もこれから沖の島観光開発年次計画として、その公園環境整備工事に六百万以上の予算で着工されるわけですが、

島だけの中央にコミュニティ広場をつくり、また各種施設の整備をされても、そこに通ずる道路が危険な状態では、人を集めるにしろ、せつかく館山に来たお客にも立ち入りを遠慮してもらねばならぬありさまです。

これは今回上程されている議案第六十二号市道路の認定及び廃止にも関連するもので、現在は県有地である松林、その周辺の部分を五十七年度をめどに防衛庁に所管がえをする予定を立てておられますが、道路の舗装となるとまだまだ遠い先のこととなるのは必至であります。また道路のみを先行して簡易舗装したとしても、護岸工事がなされていなければ、ちよつとした台風などにもその都度今回の如く破壊されるのは火を見るよりも明らかであります。護岸について五十七年度と言わず、早急に大蔵省、防衛庁間の所管がえをしてもらい、防衛庁に護岸工事をお願いしなければ、数億円必要とする経費をなかなか工面するのは困難であろうと考えられます。

そこで、私の質問の第一点としまして、当面市はこの道路を使用可能のように岩くずなどを利用して路面の修理をしていかなければならぬと思いますが、そのためにこれから毎年数年の間、臨時補修のための道路維持費の予算計上が必要と考えます。市長さんにその計画がおりかどうか、お伺いいたします。

最後に、第二点としまして、夏季シーズン到来前になりますと北条海岸を初め沖の島にも茶店が建設され、大半は他県からの業者が出店をしていると聞きます。茶店が乱立し、海岸道路からは美しい海も見えなくなり、自然の美観をかなり阻害している状況となっております。

その営業の申請及び許可は県知事となっておりますが、実際に海岸を使用している当市が一応窓口となつてゐるのですから、その使用する上下水等も十分に当市の衛生管理が行き届いているか疑問であり、また税金等も収納されているのか。いま市民、いや国民は為政者側に対するあらゆる面を光らせています。税の徴収もますますむずかしくなってくるものと考えます。市は今後環境保全のための各種営業の許可、また税の徴収にどのような対処していけるのか、御意見を伺いたいと存じます。

以上、大きく二つに分けて、その一つ市営住宅の件、その二つ属の島、沖の島の道路舗装並びに環境保全の件につきお尋ねいたし、私の質問を終わりますが、御答弁により再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 古賀議員の御質問にお答えをいたします。質問の大きな第一点、市営住宅の払い下げの件でございますが、そのまず小さな第三点についてお答えをいたします。

当市は、公営住宅法の目的に従い住宅に困窮する低額所得者に対して、低廉な家賃で賃貸することにより市民生活の安定と福祉の増進を図つてゐるところでございますが、いまなお市営住宅への入居を希望する者が多いのが実情でございます。現に本年の十一月に行いました応募状況を見ましても、応募戸数四戸に対して応募者数は十四世帯あつたわけでございます。こういうような実情にかんがみまして、これらの人たちのために建てかえによりまして、さらに量的な充実と質的な充実を図り、住みよい環境整備を進めていく方針でありますので、従来の議会においてお答えい

たしましたとあり、当局といたしましては払い下げをする考えはございません。

したがしまして、御質問の第一点の分割管理方式について御質問がございましたが、分割管理方式については考えておりません。

第三点の建てかえの時期がきて一時立ち退きについて十分対処できるかという御質問でございますが、入居者の方々に建てかえの必要性をよく理解していただき、入居者と十分な話し合いを持ちながら万全を期してまいりたいと考えております。

また、小さな第四点でございますが、これは当局に永住を希望する方々に対して、その宅地をどのように確保していくかという御質問でございますけれども、従来一般向けの住宅用地の確保につきましては、館山市開発公社事業として昭和四十四年の長須賀住宅団地、四十五年湊住宅団地、四十七年渚、青柳住宅団地、五十年坂田川住宅団地の分譲をいたしまして、需要に応じてきたところでございますが、四十八年の石油ショック以来経済の減速化、開発の抑制、総需要抑制政策などを背景といたしまして、国の公社はもとより館山市開発公社の経営も悪化したところでございます。この開発公社の健全化を図るため、五十一年に事業の見直しを行い、事業の縮小を図って健全経営に努めてまいりまして、現在の開発公社は公共用地取得事業の機能しかございませんので、住宅団地事業を行うことは現在のところ考えておりません。

御質問の大きな第二点、鷹の島、沖の島間の道路補修及び環境保全、その他に関する御質問でございますが、第一点につきましては、沖の島に至る道路は沖の島公園やその周辺地域を利用する人々のために従来から市が路線の維持補修をしてまいりましたが、

今後もし引き続き路線修理の予算を計上して適時補修して住民や観光客等の利便に支障のないように努めてまいりたいと考えております。

なお、道路舗装につきましては、積極的に防衛庁に要請してまいりたいと考えております。

御質問の小さな第二点でございますが、この点は御指摘のように海岸砂地の占用許可権者は県でございますので、市は茶店業者の出店、管理等について直接これを規制できない立場にあるわけでございますが、しかしながら観光の見地から海水浴客等のため快適な海浜を考えておりまして、この旨を従前から県に強く要望しているところでございます。海水浴客は本市年間入り込み客の中で最も大きな割合を占め、市といたしましては観光上イメージダウンにならないよう今後ともより一層努力をいたしたいと考えております。

なお、茶店に対する課税につきましては、税法の定めるところに従いまして課税客体の把握が行われているものでございます。

以上、答弁を終わります。

○七番（古賀礼四郎君） 再質問させていただきます。

先ほど述べましたように、五十年度の建設省の通達にはこの三つの規定がしてあります。すなわち一つ、三大都市圏での払い下げは原則として行わない。これはあくまで三大都市圏をいうのであつて館山市は含まれていないと私は解釈します。二つ、払い下げ対象の住宅は木造住宅と簡易住宅、低層住宅とする。三つ、払い下げの時期は建築後耐用年数の半分を経過したものに限る。すなわち木造については十年、耐火簡易平屋建ては十八年とすると

なっております。

この規定と同時に、また各自治体に対しその保有する公営住宅に対して、建てかえるものと、払い下げをする、用途廃止をするものとの分類を明確にして、管理計画を明らかにしなさいと指示されております。

これについて、市はこの通達が出される以前は払い下げたところもあります。しかしこれ以後は建てかえるものの方針のみをとられて、他の分類はなされていない。住宅公団の方も今後賃貸住宅と払い下げの分類をしようとしておりまして、この笠名住宅の現入居者全部が払い下げを希望していますし、前に述べた三つの規定にも合致しております。市は今後入居者とよく話し合つて了解を得て今後の方針を進められたいと思います。一方的に建てかえる方針だけでなく、市の計画も入居者の希望もかなえる分割折衷案と申しますか、今後これを進められないものか、いま一度お尋ねいたします。

それから、建てかえ中の補償ができるかということに対して、市長さんのお答えよくわかりましたが、那古の住宅の場合は館山の出身者が非常に多くて比較的スムーズに明け渡しが行われましたが、笠名の場合は当市出身者が非常に少ない。わずかに親類のある方が四十四戸中七軒しかありません。他は寄るべきところがありませんので、建てかえ中のため明け渡しを強行されるならば入居者は全員で組織している笠名地区払い下げ促進同志会というもので民事訴訟に訴えてもと対決する姿勢を表明しております。

いま一つは、私費で増築した家も四十四戸中二十六戸あります。これは借家法で定められている有益費の償還請求権により、有益

費の請求が立ち退きのときにどつと出されたときの費用は莫大なものとなると思います。このことについてこの費用のめんどろをみるだけの工面がつくかどうか、この点もお尋ねしたいと思ひます。

それから、古くなれば古くなるほど修理費がかさんできております。現在二百七十万程度市営住宅の修理に使われております。これを一戸当たりしますと、市営住宅百十五戸ですから、一・五万円ぐらいでわずかのものなんですが、だんだん古くなるに従つてこの費用は増してくる。もちろん経済性を考えて市営住宅をつくっているのではなくて、損得は関係ないわけですが、修理費がだんだんかさむということを考えますと、払い下げの方が管理が行き届いて経済的ではないかと、このように考えますが、これについてお答え願ひたいと思います。

それから、現在入居者ははつきりと払い下げをするのか、建てかえするかというようにことがわかりませんので、市長さんは常に市民優先、住民優先の行政をやりたいと申しておられます。入居者にとつては口約束にしろ一時払い下げもあり得るという気になつて、今後市側の一方的に建てかえの方針をとられるでは納得をしません。入居者と市側の相互理解と融和が必要で、現状のままでは住民の一つの不信が十の不信につながり、市政不信となりましよう。いま国会でも盛んに行政不信の問題が質疑されており、この際明確な方針を聞かしてもらえないものか、再びお尋ねいたします。

それから、その二つ目として、館山市の市営住宅の設置及び管理に関する条例及び施行規則が三十六年三月二十日に出されてお



りますが、この条例の二十条の保管義務から三十条に至る住宅監理員までの各条項が厳密に履行されていない向きがある。入居者側にももちろん手落ちがありまして、それ以上市の側にも管理責任を十分果していない傾向があります。すなわち建てつけ、入れつけの状況で、修理を頼んでも大工さんが一人しかいないという状況で一年間ぐらい何の音さたもない。そのうちに雨が降る風が吹くて、ほとんど自費で各戸とも修理しております。いわゆる建築後のホローアップが全然なされていないところに問題があると思います。

今回、上程されております市営住宅の条例一部改正の趣旨とも相まって、市側の管理責任を今後十分果されるように要望してこの質問は終わります。

それから、宅地の先行取得についてありますが、新聞広告等を見ますと、毎日のように宅地の分譲というものが出ております。不動産業者に先がけて市が本当に熱心に公有地を理解ある地主と話し合っていくならば、取引価格は若干安くても支払い等に絶対安全であるという市の方に分譲する地主さんも出てくるんじゃないか。館山市に長く住んでおれば、市有地を安く市民に譲渡してくれる。住みよい館山市にするためにぜひとも必要な施策ではないかと思われまます。

いま一つ、財団法人館山市開発公社というものは、五十年頃まではその機能を十分に発揮していました。五十一年度以降の総需要抑制、開発抑制策以降はほとんどその機能を果せないという状況にあると思います。今後この公社をさらに充実させて、宅地の開発の先行取得をしていかないと、いろいろの点で不都合が出

てくるのではないかと思います。市当局はこの点をどうお考えか、いま一度お答え願います。

それから、鷹の島、沖の島の間の道路の舗装の件でございますが、これは過去に東京防衛施設庁と館山市長との間で四十一年十二月十三日に協定書が結ばれ、つい最近五十四年十一月十九日もこの協定書の確認が行われております。

今回の議案市道路線の変更、廃止とも相まって一日も早くこれを所管がえをしてもらい、場周道路として舗装しなければ、せっかく沖の島の整備工事をなされても、そこに通ずる道が全然できてないという状況では、開発の工事が効果は半減するんじゃないかと、こう思われますので、国と県に早急に交渉をして所管がえを至急にされるように要望いたします。

それから、水道水、環境保全の件でございますが、現在電力等は自家発電でやつてるようですが、水道水は使われておらずほとんど井戸を業者は使用しております。衛生面で非常に不完全な点が多い。また便所も簡易便所で、その処理は海水を汚すようなこともあり得ると思います。

国会でも来年度予算の財政立て直しが検討されておりまして、地方交付税も減額するように聞いております。また一般消費税も立ち消えになって、既定の税の自然増収に対する期待をするよりほかはない。地方自治体も大いに税の徴収ということは影響してくるものと思われまます。

茶店業者に対しては税が徴収されているというお答えでしたが、ほかの各種の市の税収も厳密に行っていないかなければならないと思います。いままでの慣行的な不鮮明な営業または税収入面を洗い

直すべきときに来ているのではないかと考えます。なれ合いの行政に対し市民の目は一層厳しくなると思いますので、この点の考え方と、一層の努力を期待いたします。これについてお答え願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 再質問第一点の払い下げの件でございますけれども、これは従来からも払い下げをするという方針をとったことはございませんので、従来から払い下げしないという方針で進んできているわけでございます。変更したわけではございません。

先ほど御答弁申し上げましたように、五十四年十一月には四戸に対して十四世帯の申し込みがあり、五十四年二月には十七戸の空き家に対し三十二戸の申し込みがございました。五十三年十二月には九戸に対して三十五世帯の希望者が出ております。そういうような実情でございますので、今後住宅をふやしていかなければならない、市営住宅をふやさなければいけないというふうに考えているわけですが、なかなか用地の入手も困難でございますので、従来の土地の上に中高層化をして、そうして質的な、量的な増大を図っていききたい。そういうふうに考えているところでございます。まして、建てかえの方針でいききたいというふうに考えております。

それから、開発公社の件でございますが、先ほど御答弁申し上げましたように、五十年までは仕事をしてまいりまして、これは市民のために大変役に立つたと思っておりますけれども、経済情勢の変化によりまして経営状態そのものが非常に悪化をいたしましたので、現在の能力では宅地造成まで手が回らないというの

が実情でございます。これは今後の課題として検討いたしたいと思えます。

沖の島の道路の件でございますが、これは先ほど御答弁申し上げましたように、防衛庁の予算の関係もございまして、防衛庁がある土地を全部県から払い下げを受けない限り、それに接続した護岸でございますので、この護岸を所管がえすることはできないと思っておりますけれども、これはあくまでも国の問題でございますので、御要望に沿いまして国に働きかけるつもりでございます。

税の問題でございますが、これは先ほど御答弁申し上げましたように、それぞれの機関におきまして課税客体の把握に努めていくべきだと考えております。

以上、答弁を終わります。

○七番（古賀礼四郎君） 補償問題のお答えがなかつたような気がしますが、それについてお願いいたします。

○市長（半澤良一君） 入居者がそれぞれ増改築することにつきましては、それぞれ市の許可が要ることになっているわけでございます。そうした分につきましては今後いろいろ話し合いをしたいというふうに考えております。

○七番（古賀礼四郎君） 当然十平米以上の物置程度をつくるのは許可されておまして、それに従って書類上の手続はしております。しかし一べん建ててそれから立ち入り検査等もやっているということが全然行われていない。ほとんど入れっ放し、建てっ放しという感じを住民の方は持つているわけです。もう少し十分市の方もめんどりをみていただきたい。そうしないと、せつか

くの公有物が耐用年数がだんだん短くなつて、いまでは全然直していいところは玄関の扉も開かないような状況です。で、今後十分入居者側と市側が密接に連絡し合つてやつていかないと、この建てかえの時期に來ても感情的なもつれがそういう民事訴訟まで持ち込むというようなことになると思われまして、十分この補償をめんどうをみていただきたい。どうしても建てかえをされるというんでしたら、相当な補償費を、居住権を主張しますので、相当の補償費があるんじゃないか、こう思われます。

そうした場合に、那古の住宅程度の五十万程度で済めばいいんですけれども、四十四戸ばかりのうち二十六戸が全部増改築しておりますので、一軒に当たり百万程度の、もつとなるかもしれません。この程度の補償費というものを要求してくると思います。その際市の財源に非常に影響するんではなからうか、こう思いますので、この点十分にお考えの上、今後の市営住宅の管理の方針をお決め願いたい。こう感じます。

時間でございますので、このへんで質問を終わらせていただきます。

○議長(石井 正君) 以上で、七番議員古賀礼四郎君の質問を終わります。

次、二五番議員五十嵐 昇君。

(二五番議員五十嵐 昇君登壇)

○二五番(五十嵐 昇君) 私は、今定例会におきまして以下三点について御質問を申し上げ、市長の所信を問うものでございます。

十一月八日の地方紙房日には城山に博物館をと題しまして、建設計画を検討しているとのこと、市長の日頃言われる文化都市館

山の建設にふさわしい快挙であると信じ、もろ手をあげて賛意を表するものであります。

博物館は、ビーブルズユニバシティすなわち民衆の大学とも言われ、社会一般に開放された教育機関であり、人口の増加、余暇の増大、文化水準の向上などと相まつて、利用も逐年増大している現状であるのであります。特に近年は急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方が国家的立場で検討された結果、博物館が生涯教育の推進に不可欠の機関として位置づけられ、生涯教育事業の展開にあたりまして、博物館との連携を深めることを重視する結果になつたと思ふのであります。

また、五十二年七月に公示されました学習指導要領に基づいて学校教育では従来以上に博物館と郷土文化施設の利用を積極的に行うことが予想されるのであります。

このほか、当館山市のような観光都市にとりましては、博物館が単に教育的な施設に利用されるにとどまらず、観光事業の大きな目玉としてその使命を果さなければならない状況であり、神奈川県立小田原城址史料館や、青葉城跡の仙台市立博物館の例を見ても明らかとなっております。

以上のような観点から、現在市長が構想されている館山市立博物館の建設計画については全面的に敬意と賛意をあらわすものであります。が、博物館の位置、規模、内容等について若干の質問を行おうと存するものでございます。

その第一点は、建設場所についてであります。文教、観光の両面から考えまして、館山市指定の史跡である城山の山頂に建設することが最も適当ではなからうかという私の意見は、いまま

何回となく力説してまいつたのでありますが、市長のお考えはいかがでありましょうか。

小さい第二点は博物館の規模について、文部省の示した公立博物館の設置及び運営に関する基準によれば、市立博物館の望ましい規模はおよそ二平方メートルとされ、また専任の職員も六人以上を置くことが定められておるのでありますが、これらの点についてはどのような計画を策定または検討されているのか、お尋ねいたします。

次に、小さく第三点は博物館の内容についてであります。博物館法によれば、博物館は総合博物館、人文系博物館、自然系博物館の三種類に大別されるとしております。

私は、館山市の、いや安房の特色のある歴史と恵まれた自然とを紹介する意味からも、自然と人文とを合わせた総合博物館が望ましいと思ふのであります。

また、展示資料の点につきましても、日蓮の資料、里見氏歴代の資料など、すぐれた文化遺産などを系統的に取り扱うことはもちろんであります。古くは天富命が四国の阿波の忌部氏の船軍を率いて北上し、わが館山市の北端布良の地に寄られたのもこの郷土安房の国であり、かつまた「わしは房州漁師の子だよ、雑魚は釣らぬよカツオ釣り」と喝破された宗教界の偉人日蓮上人を産んだのもこの房州、この安房の国であるのであります。

したがって、安房の開拓の祖天富命のその先祖天太玉命を祭つた安房神社の由来を明らかにするとか、日蓮上人の遺訓を顕彰するのもわれわれ後人の義務であり、責任であるとともに、また名譽ではなからうかと存ずるものでございます。これら貴重な資料

を展示することは、このつくられるであろう博物館の中心の目玉特徴となるでありませんか。

里見氏九代義康、十代忠義の二代二十余年にわたる城山の関係資料はきわめて僅少で不十分な現状であります。今日残るお家敷とか、身分の低い人たちの寝泊まり家屋のあつた寝小屋、それに南下、北下、おうまや、上町、中町、下町等の地名の現存することは、城の存在を確証するものであり、日蓮に関する資料とか、里見の資料に加えて、中村前代議士所蔵の国宝、重要文化級の佛像、それに加えて故水田代議士の収集された国際的に著名な安房の国保田に生まれた菱川師宜の浮世絵コレクション等を加えて展示すべきであるとの私の意中は、六月の定例市議会にも御提言申し上げたとおりでありまして、こうすることによつて県内の優秀博物館に伍してすぐるとも劣ることはなく、ひと味もふた味も違つたスケールの大きい特色のある博物館が誕生するものと信じて疑わないのであります。房州の名物が、いや房州の誇りが一つふえたものと確信する次第でございます。

次に、小さい第四点は建設後の運営であります。既設の県立博物館一館の予算はおよそ年間八千万円、県内の市立の博物館に至りましても三千万円が経常的予算として執行されているのであります。館山市の財政事情からいたしまして年間数千万円を恒常的に支出することは容易なわざではないと考えるものであります。市川市立博物館のように県、市立共同の博物館として建設、運営するとか、または既設の安房博物館の二号館的な性格を持たせて県立博物館とすることなどどうでありましょうか、提言を申し上げ市長の御意中をお尋ねするものであります。

次に、館山幼稚園の件でありますが、同園は昭和二十一年四月城山の東側に旧軍の施設を利用開園し、昭和三十一年六月に城山西側の現在地に移転、現在園児四百十一名、十一学級、敷地面積二千六百六十五平方メートル六百五十六坪、園舎面積一千三百七十六平方メートル四百十三坪、うち一棟は百八十五平方メートルの粗末なプレハブ園舎が仮設されている現状でありまして、完全な園舎の完成の一日も早からんことを父兄、園児、地元住民一同が念願している実情に対して、当局はどう対処されるつもりか、御計画をお伺いいたしたいと存じます。

現在まで館山幼稚園父母の会、館山小学校PTA役員同道の上数回にわたり市当局に陳情、お願いを繰り返して、これに対して市当局は現在地に防音園舎鉄筋二階建ての建物を建設する予定であるとの御回答のように聞き及んでおるのであります。

二階建ての場合は、敷地面積等は幼稚園の設置基準に適合するものとして、文部省令第七条に一般的基準として、幼稚園の位置は幼児の教育上適切で、通園の際安全な環境にこれを定めなければならぬと規定されておりますが、現在の土地が住宅地の開発等によりまして交通の頻繁な公道を抱え、結果的に見て通園上適切、安全な環境にあるとは言えないのであります。これに対して当局はどういうふうにお考えになつておるのか、お伺いしたいと存じます。

また、第八条におきまして、園舎は平屋建てを原則とする。特別の事情がある場合は云々と規定されておりますが、平屋建てが望ましい姿であるとの原則を規定しているのであります。

そこで、私は問題点として以下四点にしばつて市長のお考えを

伺うものであります。

一つ、館山幼稚園建設は教育優先の立場から早急に実施すべきであると思いますが、市当局の考えられる時期はどうであるか。

二番目、建設構想は二階建て園舎のように聞き及んでおりますが、これは文部省の設置基準の原則に違反することになると思いますが、当局はどう考えられるか。

現在の位置は、以上申し述べたように幼児の教育上適切でなく、通園上望ましい環境でないと結論づけられますが、当局はどういうお考えであるか。仮りに現在地に建設するとした場合、建築期間中の園児の教育をどうするつもりか。

地元全体の要望として、交通頻繁な公道に面しての現在地は、事故発生につながりかねない要素があり、新築の場所を購入し建築、完成を待つて移転したい。これが地域住民ことに小さい子供を持つ通園学区内の家庭の最大の関心事でもあるのであります。

そこで、最適の候補地として、将来の園児の増加等を勘案いたしまして、近くに富士興産株式会社の所有地五千八百九十三平方メートル、千七百八十一坪があり、売却したいとのこと。この適当な場所の新築、移転することを考えていただけないか。

また、どうしても不都合の場合には、第二候補地といたしまして水産大学実験跡地も十二分に考えていただきたい第二候補地であることを念願に入れていただきたいと存するのでございます。市長の所見をお尋ねいたします。

大きく第三点といたしまして、省エネルギー時代に直面して当市の対応策、具体策についてお伺いいたします。

昭和四十八年の第一次オイルショック時代は、全国民の全力投

球で何とか切り抜けてまいりましたが、今回またイラン問題に端を発した第二のオイルショック時代に突入を余儀なくされ、東京におけるサミット、先進国首脳会議の最重要議題に省エネルギー問題がのし上り、町じゅうにはなんらんする自動車の群、工場群の動力源、船から飛行機に至るまでの燃料はたまた家畜類のたん白源、またわれわれの衣料源これ石油に求めている現状と、わが国のエネルギーの七〇％をこの輸入する石油に依存しているという現状を踏まえて、万一供給停止ということでもなつた場合、わが国の死活問題にまで発展しかねないものであります。

そこで、以下四点にしばつて御質問を申し上げます。

一つ、石油消費を国全体として五％から七％の節約を余儀なくされる現状において本庁舎、市民センター、給食センター、老人センター、温水プール等の大施設を抱えた当市の具体的対策如何であります。

二番目、石油節減に対しての太陽熱の利用の機運が高まつておりますが、太陽熱利用の施設、設備を新設した場合に、設備費の一部を補助する意思なきや。

三番目、廃棄物利用と物を大切に扱い、さらに節約する思想の涵養について、古材木、古タイヤ等の熱源に利用できるものの処理についてお伺いいたします。

次に、五三〇運動、ごみなし運動の促進と明るい社会づくりについて、特にこの運動は自分たちの周囲からごみをなくそう、自分たちのごみは自分たちの家庭に持ち帰り処分しようという合い言葉であり、これはごみを捨てないという精神運動が基本であつて、美しい環境づくりの原点であるとともに、公衆道徳の原点で

もあると思われるのであります。これは社会的な連帯意識の和を深め、郷土愛の精神を培い、青少年の健全育成にもつながり、館山市の主張するごみの減量運動に大きく貢献するものと存じます。時間がまいりましたので、以上。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 五十嵐議員の御質問にお答えをいたします。大きな一点、博物館の件でございますが、建設の地点は目下城山公園の整備を計画中でございますので、それとの関連で総合的に決めていきたいというふうに考えております。

三番と四番は関連深い質問でございますので、一括してお答えをいたします。館山市の博物館も性格的には総合博物館でございます。申請は登録博物館ということでもまいりたい。したがって、そういう立場からその規模等を考えていきたいと思つております。

第五点は、経費がかかるんで県立博物館にしたらどうかという御質問のようでございましたけれども、そうしてもらえば大変都合がいいわけでございますけれども、現に安房博物館もございまして、これは不可能だと思ひます。十分市の財政状況をにらみながら運営をしていきますので、市立で十分できるというふうに考えております。

大きな第二点、幼稚園の建設についてでございますけれども、建設の時期につきましては五十六年度設計にかかりたいと考えております。それは館山幼稚園の園舎の大半が建築後約十年でございまして、防衛補助事業としてやらなければいけないというふうに考えております。そういう意味で、五十六年度から設計にか

かつて建設にかかりたいと、そういうふうに考えております。

建設の位置は、現段階では現在地と考えております。また、園地が狭いので二階建てを検討しているわけでございます。

建設中に園児の教育につきましては、改築のためにいろんなケースが考えられますけれども、それぞれ適切な方法を検討していきたいと思っております。

建設場所につきまして、交通問題等から現在地でないところの方がいいんじゃないかという御質問がございましたが、具体的に富士興産の土地ということがございましたけれども、ここは御案内のように城山公園の整備計画の中に入れて考えておりますのでそういう立場から競合いたしますので、そういう意味で不適当だと考えております。

水産大学の実験場跡地というような御指摘もございましたけれども、これは検討する余地はあろうかと思っておりますけれども、現在では適当な場所がないという考え方から現在地に建設する予定であります。

大きな第三点のエネルギー問題でございしますが、第一点で、この市役所等の市の建物についてどんなふうに節減するかという御質問でございましたが、暖房等につきましては温度を国の指示に従いまして下げておりますし、また不要の電灯を消すというようになことで極力資源の節減に努めているところでございます。

太陽熱の利用についてでございますが、太陽熱を活用することは現在の時代に即応したものでございますけれども、温水器等の設置のための設備費を公費で補助するということは現在考えておりません。

廃棄物利用と節約思想の涵養でございますけれども、正木処理場にゴミとして集められて、また持ち込まれる廃棄物の中には建築廃材等昔なら燃料として大切にされたものが大量にございます。これが熱源として有効に利用されることは省エネルギー、またゴミ処理費の節減から望ましいことでございます。正木処理場では助燃材として可能な限り使用しておりますけれども、これをその他の施設、一般家庭へということになりますと、生活様式の変化、向上によりなかなかむずかしい状況にあると考えます。

五三〇運動でございますが、この運動は、ゴミを拾うことよりも捨てない心を養うという考え方から、自分のごみは自分で持ち帰るのをキャッチフレーズに愛知県豊橋市で始められ、全国にその輪が広がりとつあるというふうに聞いております。

ごみは大衆が被害者であると同時に、また加害者でもあるという認識のもとに、地域環境美化のための奉仕活動が進められているわけであります。このような運動が全市民的な市民運動になることは非常に望ましいことでございますので、市といたしまして必要に応じ支援していきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

〇二五番（五十嵐 昇君） ただいま、市長の御答弁によりまして大略は了承をいたしますが、なお幾点かにつきまして再質問をさせていただきます。

建設の予定につきましては、いろいろ学術調査あるいはいろいろの調査の完成を待つて云々というお話であります。いままでこれが唱えられてまいりましてから非常に長い期間が空費されておるのであります。したがって、こういう有益な博物館等に

つきましては早急に結論づけをいたしましたして、その完成を一日も早くありたい。これはわが館山市の文化都市建設にも、また観光的な面から考えまして大きく観光行政に寄与するものであると、こう存じまして、一日も早からんことをお願い申し上げるものとございます。

なお、建設の位置につきましては、大体ただいまの御説明で了解いたします。

それから、規模並びに目標等がありますが、ただいまの市長さんの説明によりますと、県立博物館としてということは無理ではなからうかというふうな御説明があつたのでありますが、やはり市でちやちや博物館建設ということは、これは大いに慎重なければならぬじゃないか。私もこの通告質問でさつき御質問申し上げましたけれども、莫大な費用がかかる。また県の予算、市の予算等をにらみ合わせて県立ということは無理であろうと、こういうような消極的な御意見でありますけれども、これはやはり県立博物館といたしまして、安房全域の支援を広域的に考えるべきである。

たとえば、館山市博物館として小さく銘打つた場合に、安房郡の各市町村の御援助あるいは有識者の方の御支援等はなかなかむずかしいんじゃないか。館山市博物館とするよりも、この安房の博物館ということになりますれば、安房全域を代表するものと私は考え、そこに御協力を願う点につきましても、安房全域の御支援をおねがひするんじゃないかと、また県立博物館としてその費用を県にお願いするということになりますれば、わが館山の財政に大きく寄与しないか。

いずれにいたしましても、建てるということのお考えのようでございますが、さてその主体を県に置くか、市に置くかというところで、私は安房の博物館ただいま海洋博物館と特徴づけられております、あの安房の博物館を延長いたしましたして、これからつくられるであろう、つくらなければならぬこの博物館は、安房博物館の一翼として城山の山頂高くそびえ立たせること、これが安房の象徴、館山の象徴ともなうかと存ずるものであります。

したがって、これは市長さんの努力によりまして、ことに今日館山と県とは半澤市長さんあるいは川上知事といったような大きなバイブラインが敷かれておりますのでありますから、このバイブラインを有効に、強力に使いこなすという点で一にも、二にもお考えをいただきたいと、こう考えるのでございます。

この安房の国は、自然に恵まれ、あるいは歴史的におきまして、千葉県の文化の北進の最一端を担うものであります。先ほど申し上げました富命、天太玉命を祭つた安房神社これは安房、上総、下総と続くその原点に立つものであろうと存じますので、何としても私は先ほど申し上げましたように目玉、特徴をどこに持つていくか、総合博物館としてすばらしい安房の歴史を生かしていく意味から、私は県立博物館に持つていくべきであると、こう考えるのもいかなものであろうかと思うのであります。いざにいたしましても、県立博物館として私は持つていきたい。努力をしていただきたい。渾身の施策としてお考えをいただきたいということを念願するものであります。

館山幼稚園の方に移りますが、この建設の時期を五十六年、再来年ということになりますと、二カ年の大きな時期が何か空白に



なりはしないか、館山市の幼稚園教育、幼稚園児の教育という点を考えますと、何か空白になりやしないか、こう考えられますが、その点はどういうふうにお考えになるのか。

私は、教育優先の立場から早急に実現していただきたい。これがあのいとけない子供を持つ父兄の切ない願いであろうかと存じまして、一日も早く建設していただきたいことはできないかと、こうお尋ねするものでございます。

二番目といたしまして、現在地に云々という御説明がありましたけれども、現在地そのものが文部省の設置基準の違反であると、原則はそうであると、例外を認めます。この例外たるや、これは館山のようなまだまだ探せば幾らでも広大な敷地が求められる現時点におきまして、例外規定で幼稚園を建設しなければならぬということとは、あまりにも幼稚園教育を無視したものではありませんか、「三つ子の魂百までも」という言葉がありますけれども、私は小さい子供たちのためにやはりそこに愛情のこもった、われわれおとなが早くいいものを適当な土地を提供してつくつてやりたい。こう私は考えるのでございますが、現在地に建てるんだということですが、それも二階建ての鉄筋コンクリートだということになりますと、おしつこだ、りんこだといった子供たちのそういう瞬間的な要求に対して、二階建てではこれえられないんじゃないか。平屋ですぐそこが便所だということですが飛び出せば間に合います。子供たちはそれまでがまんできません。おしつこしちやつた、漏らすと泣き出すというような現状もあるんじゃないかと、こういうことになりますと、現在地であそこに二階建ての鉄筋コンクリートの園舎を建てなければ間に合わないという

ことは、ちよつとわれわれおとなが少し親心が足りないんじゃないかろうかとも考えるのでありまして、その点市長さんのお考えをお伺いしたいと存ずるものでございます。

なお、第一候補地を御提言申し上げましたけれども、これは城山の都市公園の開発の上からちよつとむずかしいというふうなお考えであります。第一のあの富士興産の敷地がだめとするならば、私は水産大学の跡も数千坪のりっぱな土地があそこに控えておるのであります。館山市が水産大学の移転につきましては、西岬に大きな校地を開発公社が買収に大きく役立っております。これを考えましても、もしもあの城山公園下のあの富士興産の土地が不適であり、購入不可能だと、ほかに使うんだということであれば、私は第二候補地として水産大学の跡地をぜひともこれは市有地として買収していただきたい。

先ほど、市長さんは検討中であるということでありまして、この検討を実現にまで持つていつていただきたいと思いますが、市長さんのお考えはどうか。

なお、石油消費の節約に対する御答弁でありますけれども、本庁舎また市民センター、それから老人センターあるいは温水プール、給食センターいろいろ大きな設備を抱えておりまして、これに携わる市の方々の御苦労は察しますけれども、やはり国の省エネルギー政策に協力をするという意味で、いろいろお考えのようでございます。温度の調節であるとか、時間帯を設置してある時間には温源を利用するとか、また私はときには車を、たとえば一週間のうち一回とか車をあまり利用しない。使わないというよりなお考え、またその車に対して自転車利用であるとか、原動機

付オートバイの利用であるとかいろいろあるかと思いますが、そういう点もひとつお考えをいただきまして、国の政策に協力をする。

また、温源の燃料に焼却場に集積された古木材、古タイヤ等の資源を活用する意味で、お考えをお尋ねいたしましたけれども、これは家庭用に利用することは無理であると、私は家庭に云々でなくて、市が模範的に、たとえば庁舎の重油の燃料に対して、それにかわる古木材あるいは古タイヤ等も利用できやしないかと、こういうことを御提言申し上げたわけでございます。

ことに、温水プール等につきましては、ごみ焼却場の余熱ではとてもじゃないが足りないんじゃないか、これいかでございませうか、あとで御返事いただきたいと思います。あの温水プール等におきましても大きく重油をたいているんじゃないか、こういう現状。それに対して、ある程度すぐそばにりつばな再利用できる資源を持つてあるあの位置におきまして、それを野積みにし、あそこで燃やしてしまうというようなことは、これは今日の国際事情、日本のエネルギー事情につきましてもつたないということ、私は特に感ずるものでございます。

なお、エネルギー節減に対して、市はもつと積極的に市民をリードすべきではないか、私はかつて館山郵便局にまいりましたら大きく石油資源の節約に協力いたしましたというふうなスローガンが掲げてありまして、見る者をして「うん、そうだそうだ」と、これは寒い日でも少しはがまんしなければならぬなというふうな考えを持つたのであります。自然の寒さに対して心の温かさを、私は上の方々のわずかな思いやりで、何か自然の寒さが心の

温かさにはね返ってきて、うれしいような気がして帰つたのでございませうけれども、そういうたスローガンと申しますか、標語と申しましょるか、そういうたあれを本館山市におきましても何か横幕、たれ幕等で協力しなければならぬという標語等を掲げていただきたい。こんなふうにも考える一員でございます。

ごみなし運動等も、この点もつとつとわれわれが明るい館山市の建設に協力すべきだ。ごみをなくそう。ごみが堆積する、たとえば空きかん等におきましても、深いところらに投げたものが一つ、二つ、三つ等と堆積されてごみあり館山のようになつてしまふことは、大いにこれは警戒しなければいけない。われわれもつとごみなし運動、明るい社会を建設しようというその運動に協力してきれいな、清潔な、クリーンな、この緑の館山にしたいということを考えまして、以上御提言申し上げます。

さつきの質問を。

○市長(半澤良一君) 館山幼稚園を早期に改築しろという御意見でございますが、確かに教育的見地から考えれば一日でも早い方がいいわけでございますが、やはり財政事情等もございしますので、先ほど申し上げましたように五十六年度設計にかかりたいと、予定でおるわけでございます。

現在地が不適当なんで、適当な場所を見つづろということでございますけれども、先ほど御答弁いたしましたように種々検討いたしましたけれども、現段階では適当な場所が見つかりませんので、現在地に二階建てによつて改築することによつて十分教育効果が上げられるものだ。

水産大学の跡地ということで御意見がございましたけれども、

教育委員会の方に検討いたさけますけれども、私の個人的な考えでは小学校から離れておりますので、管理上不適當ではなからうかというふうに考えております。

○教育長（安田豊作君） 温水プールの熱の利用のことですが、温水プールについてはごみ処理の余熱でいゆる温水にする熱量は十分でございます。ただ、泳ぐ場合には室温を上げなければなりませんので、室温の分が重油を利用することでございますが、冬場は半日利用ということになっておりますので、そんな点が節約するという方向でいま運営をしておるわけでございます。

○二五番（五十嵐 昇君） ただいまの御質問のうち、県立博物館としての市長の御熱意ということでお尋ねしたのでございますけれども。

○市長（半澤良一君） 博物館の建設につきましては、あくまでも県との交渉の過程では市立博物館ということで交渉をしておりますので、いまここで急に県へ頼むというわけにいかないのが実情でございます。

○二五番（五十嵐 昇君） ただいまの市長さんのお考えですと、もう交渉済みであるのでちよつと無理だということでございますけれども、これは館山市六万の市民を代表しての市長さんでございますので、一押しも、二押しも、三押しもやつて県立に持つていかなないと、館山市の財政に大きく支障を来す。こういうことが目の先にぶら下つていると私は考えますので、ことにわが郷土八束から知事さんが出ておるのでございますので、市長さんの御熱意をもつてすれば必ずや打開できると、日蓮上人の実力をもつてするならば私はできると、ちやちなほかの博物館と比較して館山

市の博物館なんだと言われるようなことがないように、県立としてつづばな、館山に行つたら、ほかの博物館と伍して決して劣らないと、むしろつづばなものだというふうな名声を博して、また効果を持ちたいと、こう存じますので、市長さんのこの次の二段三段の御交渉等によりまして打開していただきたいということを要望いたします。

なお、館山幼稚園の問題でございますが、早急というお気持はわかりますけれども、もつと早く実現できないのか。

それから、鉄筋コンクリートの二階建てを固執していらつしやるようでございますけれども、例外規定によつてやつとこ、すつとこ文部省基準に適合するということではなくて、まだまだ適当な園地を探すならばたくさんほかにまだあると、こう私は存じて先ほどの水産大学の跡地の利用ということについて御提言申し上げたのであります。水産大学の跡地は数千坪、まだ私は詳しく面積については調査してございませんけれども、すばらしい環境の土地でございます。ことに、あの教育施設をまた館山の教育施設に移していくという見地からするならば、これは見逃してはならないつづばな土地であると、私はこう信じて疑わないのであります。その点につきましては市長さんいかがでございますしやう。もしも城山の下の用地がいままでの計画からして困るというのであれば私は水産大学の実験場をとこう御提言申し上げたい。市長さんのお考えを。

○市長（半澤良一君） 教育委員会に検討してもらうようにいたします。

○二五番（五十嵐 昇君） 十二分に御検討いただくということでは

それを信用いたしまして、ことにあどけない子供たちのためにわれわれおとながこぞつて協力していただく。これを最後のお願いといたす次第でございます。

その他、幼稚園の現在地に建てることについて問題点がたくさんあります。第一、私が申し上げました二階建てもこれは原則からちよつと逸脱してゐる。それから園地が狭いと、あるいは建築期間中の園児をどうするか、プレハブ園舎を建てかえ中にあの館山小学校の校庭に建てなければ移転ができない。あるいは休園を余儀なくされるということになりますし、そうなりますと、館山小学校の教育にもすぐ関連し、悪影響を及ぼしていく。こういう結果になるのでございまして、できれば新しい用地を見つけてそこに建てて、そうしてできましたお入りよといつて持つていくと、こういうことでやつていただきたい。

この建築期間中の園児をどうするかという問題でございしますが、現在の土地に建てることとして、市長さん、期間中の園児の教育についてどういうお考えをお持ちになつておるのか、この点をひとつお知らせ願いたい。

○教育長(安田豊作君) かわつてお答えいたしますが、その期間中の幼稚園の中にプレハブというわけにいきませんので、五十嵐議員さんの御指摘のとおり隣の小学校の校庭にプレハブをリースで建てるということが一番影響のない方法だと思ひますが、よその幼稚園を建てる場合も大体そういうこととお願ひしてやつておりますが、それとこの間園地を見て来ましたけれども、全部壊さなくても、三教室ですか、南側の園舎を残したまま工事もできるんではないか、こういうふうにも考えます。ですから、一番いい

方法は義務教育ではないんですから休園が一番私の方はやりいいんですが、そういうわけにはいかないではないかといいことでございまして、結論的にプレハブでやる以外にないんではないかというふうにいまは考えております。これが防衛庁の補助であればそういうプレハブのことについても補助が出るようでございますので、可能じゃないかというふうに思つております。

○二五番(五十嵐 昇君) ただいまの教育長の御答弁でございすけれども、やはりあの場所へということになるかと存じます。またその場所ならば館山小学校の校庭にプレハブをつくらざるを得ない。またプレハブをつくるとすれば、その建築費も一部防衛庁の予算から援助願えるという御説明のようであります。やはりそこで考えられるのが、仮プレハブといえども数千万円の巨額の費用がかかるんじゃないやなろうか。防衛費だからということで国家的な見地からいたしまして、私は新築、移転ということをお願ひしたい。適当な候補地をみんな探そう。

こういうことで、時間がまいりましたから、以上で。  
○議長(石井 正君) 以上で、二五番議員五十嵐 昇君の質問を終わります。

次、一番議員神田守隆君。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) 私は、日本共産党館山市委員会及び私が去る十一月十六日に市長に来年度予算編成に関する要望書を提出しましたが、その中で市民生活をめぐる困難と不安は、自民党政府の大企業中心の財政政策のもとで新たな増大の危機を迎えていること、また、だからこそ市民生活を守るべき立場にある市政に対

し、市民の要求は切実なものとなつてしていると指摘したとおりであります。

一般行政質問の冒頭にあたり、要望事項は百十七項目にわたるわけですが、その実現にぜひ御努力いただくよう要望するものです。またこうした経過を踏まえまして、市当局の行政につき質問をするものであります。

まず第一の問題は、寝た切り老人や、寝た切り身障者の方々のために移動入浴車を購入し、入浴サービスを実施するという問題であります。

私は、これまで六月議会でこの問題について質問をしたわけですが、市長の答弁は、お年寄りのことなのでふろに入れることの安全上の問題があり、踏み切れない。こういうことでございまして。

九月議会でもこの問題を引き続き取り上げ、すでに実施している鴨川や木更津では安全対策につきどういう対策を立てているのか明らかにし、その実現を主張したわけですが、市長は寝た切り老人や、寝た切り身障者全員にアンケートを取り、その結果、要望が強いということであれば検討するということでした。

こうしたこの問題をめぐるこれまでの経過を踏まえまして、お聞きいたします。

市内の寝た切り老人及び寝た切りの身障者全員を対象にしたアンケート調査についてお聞きいたします。どのような方法で、どのような問題について、どのような結果を得たのかお聞かせください。次に、その結果を踏まえまして、移動入浴車の購入、入浴サービスの実施についてどのような検討をされたのかお聞かせく

ださい。

第二は、幼稚園での給食問題についてであります。義務制の小中学校ですでに給食が実施されているわけですが、幼稚園の就園率も保育園に通っている幼児を含めて五歳児で九五％と、当市においてはほぼ義務制に近い水準となつています。こうした中ではこれに準じて考えることも許されると思うわけであります。

学校給食法は、小中学校の給食のあり方について示しているわけですが、幼稚園での給食を考える場合には、その示唆するところ大きなものがあります。学校給食法は、学校給食の目標を教育の目的を実現するためにという観点に立ち、児童の合理的生活学習の実践の場というように指導目標を示しているわけでありまして。ですから、学校給食はその意味で教育計画の一環として把握されるわけです。歴史的には学校給食は欠食児童の救済事業として行われたこともありましたが、現在の学校給食はそうした立場ではなく、すぐれた教育的観点に立つたものであります。

私は、幼稚園児たちにとつて、食べることを通しての教育の意義は小中学生に比べてより重要であろうと思うのであります。お母さん方のお弁当これも園児たちにとつては親の愛情そのものであるわけです。私はそのことの大切さをとやかく言うものではありません。教育はそうした愛情の上にこそ成り立つものだからです。その上でこそ教育の役割があるからです。

幼児期に仲間と同じものを食べ、家庭の食事にはなかつた新しい味に接し、こうしたことを通して偏食のない子供たちに育っていくこと、そういう食生活の基礎をつくる。これが給食教育の、とりわけ幼児期に必要な役割ではないかと思うわけであります。多

くの人たちが幼児期には偏食になりがちであります。それが学校給食の中でいつの間にかきらいなものも食べるようになった。そうした経験はお持ちだろうと思います。

今年は国際児童年であります。すべての幼児に日に一回は給食としてバランスのとれた栄養価のある合理的な食事をしてもらうこと、これはおとなの社会的責任ではないかと思うわけであります。

また、こうした給食を柱に子供たちに全体として合理的で栄養価の高い食事をさせていく、すなわち家庭の食生活をも含めて改善をしていくことにつながるのではないかと思うわけであります。そしてまた、このように食べることが子供たちにとっては教育であらうという観点に立つことがどうしても必要だと思っております。

ミルク給食実施することですが、園児たちがお弁当とともに白湯や、あるいは水を飲んでという現状では、ミルクというのは大変よいことだと思えます。先生方の負担は大変だろうとも同時に思うわけであります。しかしながら、幼稚園での給食問題として基本的な検討をする必要があるのではないかと思うわけであります。父母の方の中にもお弁当は親の愛情、給食は親の手間省きだといった給食に反対の意見のあることも承知してありますが、幼児教育の問題として考えていただきたいと思うわけであります。そういう立場から質問をするわけですが、幼稚園でのミルク給食を実施するが、これはどのような考え方のものか、さらに給食の実施に進めていく考えはないのかお聞きするわけです。また幼稚園での給食についての所見を伺います。

さらに、幼稚園給食についての父母の方々の考えも明らかにするということでアンケートをとるお考えはないかどうか、お聞きいたします。

第三に、中央コミュニティセンター（仮称）の建設問題についてであります。昭和五十五年度予算編成に関する要望書について中央公民館の早期建設、文化振興の中核施設となる文化会館の建設、働く人々のための厚生施設などを備えた勤労会館の建設などを要望したところでありますが、市当局は中央コミュニティセンター（仮称）として中央公民館、北条分館、勤労青少年ホーム、健康増進センターなど統一的な施設として検討していることであり、その中で検討したいとのことでありました。

そこで、質問するわけですが、中央コミュニティセンター（仮称）この規模、建設床面積、予算、建設年度、施設内容の概略についてお聞きいたします。

さらに、仮称とは言えコミュニティセンターと銘打っているわけですが、市の発行するコミュニティのしおりによると、コミュニティ施設は企画したり、事業を起こしたり、利用したりするそれぞれの段階で、地域の皆さんが積極的に参加することによって整備、促進されていくことが重要でさうたつているわけです。当然中央コミュニティセンターもこうした論議の対象と思うわけですが、住民の積極的な参加についてどのように考えるのか。計画、建設、運営のそれぞれの段階で住民の参加の方策を示していただきたい。なお付言すれば、コミュニティという名称にとらわれてこの質問をするわけではなく、中央公民館という名称であるろうと、当然住民の参加があるべきだと考えているものであります。

す。

第四に、中学統合問題のその後について質問をいたします。

北条地区で現在二中に通学している子供の父母から二中を卒業させたいとの要望が出ています。この問題は、行政上の理由から三中に転校させられるわけですが、高校受験を控えた新設校に行くことは不利な条件となるのではないかと不安からだと思うわけですが、その不安にはそれなりの根拠があると思います。

すなわち、三中の建築は本当に今年度中にちゃんと工事が終わるか、工事未完の学校に通うことにはならないのか。また新設校として設備面で開校時には完備していないのではないのか。さらに重要な点は、先生が全く新しい学校であることなどであり、この問題についての当局の考え方、父母との話し合いはどうなっているのか、御説明を願います。

次に、通学問題であります。各地区ごとにその後どのような結論を出したのかお聞かせください。九重地区、館野地区、豊房地区、神余地区、西岬地区のそれぞれについてお聞きます。

以上、四点について質問をいたすわけですが、答弁によつては再質問をいたします。

○議長（石井 正君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十分 休憩

午後 一時 三分 再開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数二十八名、休憩前に引き続き会議を開きます。

市長の答弁を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

移動入浴車の件でございますが、小さな第一点でございますが、アンケート調査の結果について申し上げます。

寝た切り老人九十一名と寝た切り身体障害者十九名を対象といたしまして、福祉係の職員により戸別訪問をいたしまして直接御本人あるいは家族の方から聞き取りによる調査を実施いたしました。

調査内容は、日常生活上の問題点を初めといたしまして、受診の状況及び老人ホーム、ホームヘルパー、日常生活用具、入浴サービスに対する希望等でございます。日常生活用具につきましては特殊寝台五名、エアーマット一名、腰掛便座一名、紙おむつ六名の方が希望をいたしております。次に入浴希望者は寝た切り老人九名、寝た切り身体障害者四名の十三名でございます。ほかに希望はしておりますけれども、床ずれ等によつて入浴できない方が九名おります。

小さな第二点の移動入浴車についてでございますが、市内湊にございます特別養護老人ホームには完備された入浴施設がございますので、入浴搬送車によりこの施設を利用しての入浴サービスを検討いたしております。特老施設の利用あるいは搬送車の関連等十分に精詰めまして対処してまいりたいと考えております。

大きな第二点、幼稚園での給食につきましては、教育長から御答弁を申し上げます。

大きな第三点、中央コミュニティセンター（仮称）の計画内容についてでございますが、第一点は、その計画内容についてとい

り御質問でございますが、コミュニティセンター（仮称）でございますが、その施設の内容は中央公民館、北条地区公民館、勤労青少年ホーム、健康増進センター、文化ホール等の複合施設を考え、検討しております。なお、施設の規模につきましては、それぞれ国の補助施設としての基準がございますので、今後十分煮詰めてまいりますけれども、総面積は六千平米以上となると考えております。またこの建設年度は昭和五十六年度建設を目途に国、県との協議を重ねているところでございます。したがって、予算につきましては、この補助金の見通しがつき次第検討いたしたいと考えております。

小さな第二点でございますが、この件につきましては、現在の過程は行政サイドのワンステップの調査企画段階でございますして施設の内容、管理、運営に至るまでの詳細につきましては、これから関係諸団体と十分協議、検討いたしまして、市民の要望が反映された施設となるよう考えております。

大きな第四点、中学統合問題につきましては、教育長から御答弁を申し上げます。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 幼稚園での給食についての一、ミルク給食の実施についての考え方について申し上げます。牛乳はいろいろの面で栄養的に完全食と言われているものでございまして、育ち盛りの幼児に適当な飲みものだと、こう考えられるわけでございます。

それから、第二点として、本年の九月十三日に文部省体育局学校給食課長から、幼稚園の牛乳飲用の普及、促進についての通達

がありました。これらの通達の中にも、日本は世界的に見て乳製品の摂取が非常に低いんだと、そういうことから幼稚園にも牛乳を飲用させることが望ましいんじゃないかというようにことが述べられております。

こういうことを踏まえまして、保護者の意見を調査しましたところ、九〇%以上の希望がありましたので、関係方面といろいろ相談した結果、本日中という、たぶんきょうからだと思いますが一週間、一週間といいたしても実際的には三日間になりますけれども、テスト飲用をいたしまして、運営、その他反響を見まして来年から実施できたら実施してみたい。こういうことで検討しているというのが現状でございます。

それから、第二点の幼稚園で給食をということを前々から神田議員さんから要望がありましたけれども、ミルク給食も一応給食とはいうものの幼稚園給食とは意味を違えて考えております。

所見をとということですが、この前も申し上げましたが、神田議員さんも給食についてだいたい詳しい御意見をお持ちでございます。そのとおりでございまして、食べさせるということについてはやはり親の責任といえますが、親の愛情というようなものが非常に大事なものです。こういうのが父兄の中に、そういう考えをお持ちの方がおあります。それから御指摘のような一緒に食べさせてくれればありがたいんだという意見をお持ちの方もあるようですがいずれにしてもいままのところ父兄の間でも一致した意見になつてないということが一つ。それから第二としまして、幼稚園給食をするための施設と体制がまだできていないということ。ですから、いまの段階では全面的なアンケートをとってみるという段階まで



いきませんが、よりよりPTAの集まり、その他で聞いてみたり、職員に聞いてみますが、さつきから申し上げているように一致した実施という方向にはいまだ向いていないというのが私どもの把握している段階でございます。

それから、四の中学校統合問題について、通学問題を中心に各地区との懇談の様子についてまず申し上げたいと思いますが、九重地区はスクールバスにしてもらいたいという希望が大多数でありますので、その方向で進め、最後の詰めを行っているのが現在でございます。

それから、館野、豊房地区は主として自転車通学ということでその安全対策等について検討中であります。

それから、畑地区については豊房小通学児童と一緒にスクールバス運行によつて通学させる。こういうことで畑地区とは完全に話がついております。

神余地区は国鉄バス利用の予定であります。これについては長須賀のべにやの角から島原通りへと路線変更をということで国鉄自動車区に申し入れまして、自動車区からはそういう計画を提出済みの話を聞いております。これもそういう方向で最後の詰めの段階に入っている。こういうことでございます。

そういうことで、通学については全面的な了解を得られたものと私どもは解釈しております。

それから、二中学区で二中から三中に移るのに不安を持っているというように御指摘でございます。確かにそういう時期がありました。御指摘のように建築が間に合うかどうかという問題、設備が十分かどうかという問題、先生がなれない先生につけて進学

その他に不安があるんじゃないか、こういう問題のように私も解りました。が、この問題についてはただいままでに七月十七日、九月十九日ともに二中の一年、二年の全体の父兄に対して話し合いを十分行いました。さらにそれではまだ不安が解消できないというような感じもありましたので、さらに十月二十九日に二中の北条地区だけの一年生の保護者に集まっていたで話し合いましたし、十月三十日に北条地区の二年生の保護者に対して話し合いを進めました。この段階で保護者の十分なる理解は得られたものと解釈しております。近日中午に、一、二日中になると思いますが、各家庭ですか、全部に就学指定校の通知を発送する予定でございます。以上です。

○一番(神田守隆君) まず、寝た切り老人や、寝た切り身障者の方のための移動入浴車の第一点の問題についてお伺いをいたすわけですが、入浴搬送車を購入すると、こういうようなことで検討しているということとございましたけれども、この入浴搬送車について御説明を願いたいと思うわけですが、購入の費用あるいはそれによる場合どのぐらい、月に何人ぐらいの能力があるのか。それからまたそのために必要な人員、その他この問題での問題点については何か、どのように考えておるか。それからこういう方法で安房郡市の中でも入浴サービスを移動入浴車でやつてるといふ例が鴨川や木更津ということであるわけですが、入浴搬送車によるということとございますが、他の先進例、参考になるものがあるのかどうか。こういうことについてお伺いをいたします。

○民生部長(鈴木 力君) お尋ねの、まず購入車の費用等とござ

いますが、寝た切り老人あるいは寝た切り身障者の入浴サービス事業につきましては二つ方法があるわけでございますが、その一つは移動入浴車による巡回サービス。いま一つは搬送車によつて特別養護老人ホームの特殊入浴施設を利用する方法でございますけれども、この二番目の搬送車の購入につきましては、これは全国的に見ますと社会福祉法人の老人福祉開発センターというのが本社が東京にあるわけでございます。ここで貸与の形で貸し出しをしておるわけでございます。これは移動入浴車にいたしまして、また搬送車にいたしましてもこういったことでやつておるわけでございまして、大半の実施している市町村はこの老人開発センターから貸与を受けて実施しているのが多いわけであります。一部民間のテレビ局の開局二十五周年等ていわれるチャリティ事業として貸与を受けたところもあるわけでございますが、この老人開発センターから借り受けをしたといたしますと、それに対する費用といたしましては、車両借り受け負担金といたしまして現在八十六万円ばかり納めておるといふことでございます。それからその他の経費につきましては保険料とか、あるいは需用費当然かかるわけでございます。大体このような形で購入して事業を始めたとするならば、年間これはきわめて試算的な推定でございますけれども、百六万六千円程度かかる。こういうよりなことでございます。

それから、搬送車によつていわゆる収容施設の特設入浴施設を利用した場合の能力といひますか、そういうお尋ねであつたと思ひますが、搬送車による場合におきましては、いわゆる装置がかなり吟味されておりました、寝た切り老人あるいは身障者の方を

家庭から車に移しまして、さらには輸送しまして、収容施設での入浴に対する装置というのがかなり完備してある。こういうふう聞いております。したがひまして、移動入浴によるよりも搬送車の方が寝た切り老人あるいは身障者の方が気持ちよく入浴できるというふうなことを聞いております。

それから、これをやつた場合の必要人員でございすけれども、当然運転をする運転手、それからなお看護婦が必要になると思ひます。これは老人あるいは身障者の絶えず健康状態を監視するといふたてまえから看護婦をつけるということが条件になります。それからなお介護者これは当然でございすけれども、介護者が一名ないし二名、最小限三名の人員が必要といふことでございす。

それから、問題点でございすけれども、これはいろいろございすけれども、やはり入浴サービスを行うことによつて、対象となる老人あるいは身障者の方が事故のないようにしなければいけないということがまず第一点考えられるわけでございす。これを実施する場合には看護婦の看護、監視はもとより必要でございすけれども、やはり医師の診断書が必要になる。こういうことから入浴対象者の健康状態を絶えず見守る必要があるのではないか。

それから、問題点としましては、これは移動入浴車と搬送車の資格と申しますか、そういうことを考えた場合には、先ほど市長の方から御答弁ありましたように希望者が現在のところ対象老人あるいは身障者の約一％であるといふことで非常に少ないわけでございすので、移動入浴車の場合には非常に装置が簡

略で人手が多くかかる。コストも非常に高くかかるということが入浴車の場合にはきわめて試算でございますけれども、一回の入浴の費用が一万五千円程度かかることになります。

それからまた、搬送車によつて特老内の特殊入浴施設を開放していただきまして、これを利用した方が経費の面のみならず合理的な事業ができるんじゃないかというふうに推測してあるわけでございます。しかしながら施設の借用問題あるいは搬送車の導入体制の問題等ございまして、具体的な検討を今後いたしたいというふうに考えておる次第でございます。

○一番（神田守隆君） 私はこれまで寝た切り老人あるいは寝た切り身障者の方々の入浴の要望というのは非常に痛切のものがある。またテレビなんかによりまして非常にそうした方々へ入浴サービスをするということが大きな世論の一つになつてるといふふうに思うわけであります。市政がそういう立場から、そういう方々に手を伸べる、これが非常に大切なことだと思つてあります。が、具体的に搬送車あるいは入浴車、具体的な手段をめぐつて現実に考えが進められているわけですが、私は入浴サービスを実施すると、こういうような立場で市政が進むということについては非常に評価をするものであります。

その上で、さらに市長さんにお伺いをしたいわけであります。が、先ほどは検討しておるといふような話であつたわけですが、実施の時期について、ぜひとも実施していただきたいということで検討ということより、それよりその先にもう少し具体的ないつの時期に実施ということまで考えているんだというふうなお考えがないか、お伺いをいたしたいということであります。

○市長（半澤良一君） 検討した結果、結論が出ましてから早急に実施をしたいと思つております。

○一番（神田守隆君） 来年度の予算の中ではどういうふうに考えられておりますか。

○市長（半澤良一君） 現在まだ結論が出ておりませんので、現在はまだ予算に組むつもりはございませんけれども、予算編成まで時間がまだございますので、それまでに結論が出れば予算を組みたいと思つております。

○一番（神田守隆君） 検討の結論が出次第に予算をするというふうなことでございしますので、早い時期にこの問題についての結論を出していただきまして、ぜひとも実施していただきたい。こういうことを強く要望いたしまして、この問題について一応打ち切つて次に進んでいきたいというふうに考えます。

次の問題は、幼稚園での給食問題についてであります。が、現在のところでは父兄の一致点がない。あるいは施設と体制がない。こういうようなお話でございましたけれども、そういうことでまだアンケートなり、父母の見解を求めるところまでいけなないのだ。こういうことでございましたけれども、学校給食そのものの持つております教育的な視点、そういうものについて教育的にこういうことが必要なかどうか、この問題についての見解をお聞かせ願いたいというふうに思います。

○教育長（安田豊作君） 学校給食法には学校給食の目標が三つあります。学校生活を豊かにするとか、食生活を改善するとか、食糧についての正しい理解を与えるというふうな目標が掲げてありますけれども、私は学校もそうですが、特に幼稚園は教育の場で

あると、保育の場はほかにあるんだ。こういうようなはつきりしたねらいに違いがあると思います。したがって積極的に給食まで含めて幼稚園がやらなければいけないんだというところまでは考えていないわけでございます。そういう意味で、いまの段階では幼稚園給食について積極的な姿勢で向かうという考えはありません。

○一番（神田守隆君） この問題については全く教育長さんのお答えでは納得をするわけにはまいらないわけです。

幼稚園というものがやはり教育施設として幼稚園が現在あるわけでありますから、特に義務教育の中では学校給食法という形であるわけですけれども、この学校給食法が給食に対するその教育的な視点でとらえておる。そういうものは幼稚園においても、いやむしろ幼稚園においてこそそういう視点が必要であろうというふうに私は考えるわけであります。

このことは、父母の方々の中でも、特に幼児期にあつては偏食に陥りがちだ。私も幼稚園に通っているお子さん方をよく見ますわけですが、たとえば端的に見えるわけでございますけれども、いまの生活環境の中で非常に幼児に虫歯が多いというような問題これは家庭教育の中でももちろんそういう問題についての十分な食生活の指導というものがされなければならないことは当然でありますけれども、家庭での問題だけでは解決しない。そういうような問題点があるからだろうというふうに思うわけであります。やはり給食のような立場で子供の食生活こういつたものを考えていくことがどうしても私は必要だというふうに考えるわけで、この点については全くいまの教育長さんの答弁では納得ができません。

この問題をやつていても話が進まないというふうに思いますので、もう一度その問題について機会をみて質疑をしていきたいというふうに考えるわけであります。

次に、中央コミュニケーションセンターの建設問題でありますけれども、現在は調査段階だと、これから関係諸団体との協議に入るということでございますけれども、どういう時期に住民との、住民の意向がどういう形でこれに反映していくのか、このへんについての市長さんのお考えをお聞かせ願いたいというふうに思います。市長（半澤良一君） 調査が進みまして建設できるといふ、財政的に、財源的にできるといふめどがついた段階で相談をいたしたいと思ひます。

○一番（神田守隆君） 調査が進んで建設の財政的なめどがついてというお話でございますけれども、実はこのコミュニケーションというものを、それ自体の考え方といたしましては、実際どこに場所を持つていくのか、その事自体非常に基本的な問題であるうかと思うわけであります。

ですから、私は当然この問題は、建設の財政的な見通しというお話でございますけれども、確かに行政サイドからはそうしたところがあるうかと思ひますけれども、市民にもつと早い段階からどういうような施設、具体的にあらわれておりますけれども、中央公民館、北条分館あるいは勤労青少年ホームこういったことが行政サイドから予算のめどがついたからどうするんだという形で出されるけれども、それ以前の段階からすでに論議されてしかるべきではないか。私は直ちにこの問題については住民の中にこうした問題についての協議会あるいは委員会なりつくるべきであらうか

というふうに思うわけでありすけれども、いかがなものでしょうか。

○市長（半澤良一君） 市政の責任者として財源的な裏づけ、見通しがない場合に御相談申し上げるわけにはいきません。そうした意味で財源的な裏づけ、保証が得られた段階で御相談申し上げます。

○一番（神田守隆君） それはまさにそのとおりだろうと思うわけでありすけれども、しかしながらいくら財源的なものがついたとはいっても、市民の中にどういうような形での要望があるのか、そういうようなものとの関係でこの財源の問題が考えられなければ、物はつくつたけれども実際に市民の要望とかけ離れたものになりかねないということがあろうかと思ひます。

そういうことでは、いまの市長の答弁は一体どういうふうな内容のコミュニケーションセンターができるのか、市民の立場からすれば非常な不安を持たざるを得ないと思うわけでありすけれども、現在の時点で話が進んでいるわけでありすけれども、さらにその財源のめどがつくまでは市民へはこの問題については一切建設委員会なり、あるいはそうしたものの考えに立てないのかどうか、もう一度伺ひたいします。

○市長（半澤良一君） おつしやるとおりです。

○一番（神田守隆君） 全く、そういうおつしやるとおりだと言われれば、私の方もこれ以上の質問をするということ、がつかりする以外にないわけでありすけれども、非常に残念だと私の意見を市長に対して言わざるを得ないわけでありす。

このコミュニケーションセンター非常にいまの話でも六千平方という

ような大きな建設規模でありますし、これは今後の市政の中で住民と行政がどういうつながりを持つていくのかということ、市政の中の大きな今後の柱の一つになるかという問題であらうと思うわけでありす。それだけに住民の参加をどういう視点から、どういうふうにやつていくのかという、これは今後の大切な市政の基本にかかわる問題だろうと思うわけでありす、具体的に住民参加のことについての前進的な答弁がない。こういうことは市民に責任のある行政ということにはならないだろうと、こういうふうに私は思うわけでありす。

第四点の中学校統合問題でありすけれども、各地区ごとに教育委員会と住民との話し合いを通して、通学についての住民との結論がほぼ固まつているというふうなお話で、それ自体としては非常に結構だ。そういうことがまた当然であらうかと思うわけでありすけれども、西岬地区についてはその後どういうふうな話し合いが進められているのか、この点について質問をいたします。

○教育長（安田豊作君） 西岬地区についてはその後東地区と西地区の両方のPTAの幹部と話し合いを進めております。話し合いを持ちました。統合の方向で説明はしてありますが、完全な了解というまでには人数も少ないですから達していないとは思ひすが、そういうことでいま進めております。

○一番（神田守隆君） いまのお答えあつた問題は、小学校の西小と東小の統合問題ということのようでございますが、中学の統合問題もあるわけで、中学の問題としてはどういうふうになつておられるのか。

○教育長（安田豊作君） 西岬中学の統合は来年度、ですから五十

六年の四月からということを前々から話してありますが、その方向でこれは西岬地区の全体の了解は得ているつもりでございます。

それから、せんだつての小学校の六年生のPTAも、すでに統合を予想して制服といいますが、標準服を二中のものに合わせたものでいいかという意見が出ております。その点を最後に各方面と相談してみることと分れております。

○一番（神田守隆君） 一応私の質問いたしました四点にわたつて再質問をしたわけでありますけれども、最後に私の要望を少し述べさせていたきたいというふうに思います。

寝た切り老人や、寝た切りの身障者の方々について、これについて市長の答弁で搬送車について購入ということで検討すると、こういうような御答弁であつたというふうに思うわけであります。が、この点についてぜひともそのことを実施していただきたい。

ことに、私が調べたところでは、現在市の調査では十三名というような数字を伺っている。個別に訪問をして得た数字だということでありまして、木更津市や、あるいは鴨川市におきましても、当初移動入浴車を木更津の場合に実施した段階ではわずか五名でありました。それが一年足らずの間に二十数名の方が移動入浴車の恩恵に浴するということになつたわけでございます。

現在十三名というようなお話ではございますけれども、こういう一つの施策の実施を見ていつた中ではさらに多くの方々が希望をされるということも十分あるかと思うわけで、この十三名という人数については最低限の数字、さらにこれからもふえるものということでぜひお考えいただいて、この問題についての実施をお

願いしたい。こういうことでございます。

それから、給食問題についてでございますが、これについては丸山町では給食を幼稚園も含めて実施をしたわけでありますが、そのやり方についてはそれなりの問題点、すなわち業者委託で、おかずだけである。こういうようなことで問題点もあろうかとは思いますが、これも、週四回、月額千五百円というところで非常に園児にとつて、また父母の方々からも大変な好評をいただいていると、これがいま国の制度の中でどういうふうに位置づけをしていくのか、こういう問題点が大きな問題点として残されておるといふふうに思うわけでありますけれども、そういうような具体的な実施例というもののについてもひとつ留意をいただきたい。こういうことであります。

さらに、幼稚園の給食にあたりましては、幼稚園の先生の方々の協力こういうものが決定的に重要だろうと思うわけであります。現在ミルク給食の実施のもとでも先生の方々の負担というものはそれなりに大きなものになるというふうに思うわけであります。そういう点からしたときに、現在の幼稚園の定員の問題、先生の数をふやすという問題について前進的な方向があつてしかるべきであるというふうに考えるわけであります。そういうことでぜひその点についても要望を述べておきたいと思うわけであります。

中央コミュニティセンターについてでございますけれども、市長さんの答弁は全く私の意見とすれ違ふもので非常に残念な答弁だというふうに言わなければなりません。早い時期に地域住民の意見が反映されるようなそうした施策をぜひとも要望いたす次第でございます。

第四番目の中学の統合問題、二中の北条学区現在進学、在学してある生徒さんの父母の方からこういうような不安が出された。それはそれなりの先ほど申し上げましたような根拠があるわけでありますから、ぜひとも具体的な工事の進捗なり、あるいは設備面での問題なり、あるいは先生方の受け入れ体制の問題なりそういう具体的な施策でもって父母の方々の不安を解消されるということで努力をしていただきたいというふうに要望いたしまして、私の質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、一番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、二〇番議員石井武敏君。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私はすでに通告してございます数点にわたって質問したいと思いますが、当市におきましても現在昭和五十五年度の予算の編成に入っていると思われれます。新年度目指すところの事業は何か。また市長の方針の重点施策はどこにあるか。またそれに関連した予算の配分はどう考えられているか等々ひとしく市民の関心を集めているところのものであります。今日までに寄せられました市民の要望に対して、市長はどのようにこたえていこうとしているか、私も期待を持って見守っている者の一人でございます。

さて、今回の私の質問は、そうした予算編成の時期を背景にして予算要望にかかわる次の四点について質問いたしたいと思えます。

まず第一点は、省エネルギー対策についてでございますが、こ

れは市長の基本的な考え方を明らかにしていただきたいと思えます。

第二点目の福祉対策についてであります。具体的に新年度においてはどうのように推進されていく所存であるかをお伺いしたいと思います。

第三点目は、農業対策であります。当市の農業政策の将来的展望に立つた所信を承りたいと思います。

また、四点目の観光対策については、新年度はどこに観光開発としての力点を置かれて取り組まれていくか等市長のお考えをお聞かせ願いたいと思っております。

まず第一点の省エネルギーの時代を迎えて、当市としてはどのような腹構え、対応策をとられていくかという問題に對しましては、午前中の五十嵐議員の質疑の中ですでに提示されておりますので、なお再質問におきまして多少触れたいと思えますが、当市の公共建物に太陽エネルギーの活用はできないかという点につきましては、市長の基本的な考え方を明らかにしていただきたいと思うわけであります。

続きまして、福祉対策についてであります。御承知のように本市の老人人口は全人口の一八％、これは六十歳以上でございますが、全国的に見ましても多くの老人を抱えているのが実態でございます。老後の生活の経済的安定もさることながら、まだまだ働ける老人に生きがいのある人生を与えることは政治の大きな役割だと思えますが、やがて迎える高齢化社会に對する高齢者事業団の設立は考えられないかどうか、お尋ねするものでございます。

また、入浴搬送車の問題でございますが、これは先ほど来質疑があるありましたので省略をいたします。

また次に、かねてから要望申し上げておきました在宅老人の日用具貸付制度、現在これはどのように具体化して進められてきているか。また新年度予算に関しましてはどの程度の範囲が考えられるか等々お尋ねをしたいと思います。

次に、農業対策の中から農道の補修についてでございますが、これは農業用施設費の補修用材料費と小規模土地改良事業費補助金でまかなわれているわけでございます。補修を望む声はかなり大きなものがある現状でございますが、現在館山市名義の農業道路は市内に約八十九キロあります。そのうち約十キロメートルはすでに舗装されておりますが、まだ七十九キロほど舗装が残っておりますわけでございます。その他農業用に使用しております里道も含めますとかなりの補修を必要とする道路があるわけでございますが、この農道の補修はこれからの事業として残されているのが現状でございます。しかし農道補修費が一部落年間七万円では補修費としては安過ぎますし、最近の物価の高騰による原材料費の値上りから見ても補修費の増額が望まれるのではないかと考えられますが、その点いかがでしょうか。

また、小規模土地改良事業費の補助金の地元からの負担金分がその割合から見ても地元の負担割合が高いように思われますが、それについて市長の考え方をひとつ伺いたいと思います。

続きまして、観光農業の推進でございますが、現在観光農園の数は全国で六千五十二カ所を超えております。これが八百三十町村に分布しておりますから、約四市町村に一つその中に観光農園

があることになります。ここに延べ一千七百三十三万人が訪れており、年令的に見ましても幼児から老人に至るまでの年令層の幅の広いレクリエーションになつてきているわけであります。

さて、そこで当市においても地の利を生かしたこれらの観光政策はとれないかということですが、当市において一つの例を挙げればイチゴ栽培があります。この栽培面積は十二ヘクタールありまして、年間約二億円の水揚げ高を示していると思われませんが、経営農家の中にも観光農業への転換を図りたいとしている人たちが数多くいるように思われますので、補助金等の政治的バックアップをし、観光農業への道を切り開いていただきたいと思います。うのでありますが、市長の御所見を承りたいと思うものであります。

それから、観光対策につきましてでございますが、市内の那古から北条に至る海岸線の整備について、次の三項目にわたって質問を申し上げるものでございます。

一つは、県や国の養浜事業と対応して、北条から那古に至る海岸の砂浜を造浜できないかという質問であります。これは昭和五十一年度度海岸線の基礎調査をやつていっていると思いますが、それに対応して、当市としてはどのように養浜事業を進めてこられたでしょうか、御説明を願いたいと思うわけでございます。

この養浜事業につきましては、昭和四十九年の三月の定例議会ですでに議決されている請願がございます。この請願の請願名は、「館山、北条海岸環境整備事業の実施促進並びに汐入川の河口に突堤設置等に関する請願書」という請願書でございますが、この養浜という私の質問にかかわりますと、いささか関連してくるもので



でございますので、その請願書の中にも明らかになっておりますが、請願書の中にはこのようにあります。「すみやかに地元関係者と十分な意見の調整を図り、国策による海岸環境整備保全事業の指定を受け、海水汚染防止、養浜、海浜公園等の早期実現のため、国、県に対し積極的な対処をお願いいたします」という請願書の文章が入っておりますが、特に私は養浜ということと質問しているわけですが、これが議決されましたあとにどのように具体的に県に働きかけられたか、その進みぐあいといえますか、またこれからの対処の仕方といえますか、その点も明らかにしていただきたいと思います。

また、那古、北条、館山桟橋の補修はできないかという質問でありますが、これらの桟橋は現在に至るまでさまざまな役割を果してきていると思われまゝ。那古桟橋におきましては大正初期に創設されていると言われております。また館山桟橋におきましては大正十二年の震災で壊れたあと、当時の館山町が旧桟橋の南側に新しく桟橋をつくつたものであると言われております。北条桟橋におきましては昭和初期につくられたものであらうと思われまゝですが、これらの桟橋が果してきた役割にはそれなりの歴史があると思ひます。海を中心とした当市の観光面から見れば、かけがえのない役割を果たしてきたものであらうと私は考えられますが、市長は過去これらの桟橋が果してきた役割をどのように評価し、また観光の面でどのような位置づけをされているのでしょうか。将来の展望に立つて見た場合に、桟橋の持つ役割どのように評価しているか。またこれからの役割をどのように考えられているか。また桟橋の補修に関する予算はどのような見通しが立てられます

か新年度におきまして、具体的なお聞かせをお願いしたいと思います。

最後に、海岸を美化するために清掃員の増員や、作業効率を高めるための機械器具の導入はできないものかという質問でございますが、現在は年間を通じて常時七名の清掃員を雇っております。海岸の清掃を確保するためには、海岸線三キロに及ぶ海岸線でございまして、これを常に美化していくために清掃員の増員が必要であらうと思われまゝ。また他市で行っているところもあるようですが、思い切つて大型の清掃機を導入して作業効率を高めていくということは考えられないでしょうか、市長の考えをお聞かせ願ひたいと思ひまゝです。

以上、数点にわたり御質問いたしました。市長の前向きの答弁を期待いたします。また答弁によりまして再質問をいたしたいと思ひまゝです。よろしくお願ひいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点のエネルギー対策についての小さな第二点の問題でございますが、太陽エネルギーが石油危機以来石油にかわる熱源として見直され研究もされておりますけれども、これは日照時間や立地条件等で効率が大きく左右されております。既存の公共建物に設置しても設備投資額の大きさに比して、燃料費の節約額は僅少で経済的メリットは少なく、今後建設する建物については省資源的な面からも検討をしていきたいと思ひますが、現在の建物にこれを施設をするという考えはございません。

質問の大きな第二点の福祉対策についてでございますが、小さな第一点の高齢者福祉事業団の設立でございますが、高齢者事業につきましては、先般実施いたしましたアンケート調査の結果から前議会でも申し上げたとおり、高齢者事業団を設立することとは現段階では無理であろうと思います。

事業団を設立して、これを継続して事業として行つていくためには受注に応じられる体制がいつでもできています。そういうことでなければいけませんので、まず必要人員の確保が必要でございます。アンケート調査の結果では働きたいと答えた方が千二百人中わずか三・八%でございます、この数字から見ましても設立できる状態ではないだろうというふうに考えております。

しかしながら、高齢者社会の中で、長い人生で身につけた知識や経験を生かせることができ、かつ生きがいにつながる場としての高齢者事業団等の設立は必要になるでございましょうが、事業団を設立し、また存続するためには、これに対応する環境の醸成すなわち関係者の自主的な盛り上りがなければなりません。したがって関係者の意識の盛り上りを期待するとともに助成も合わせて考えていきたい。そういうふうに考えております。

小さな第三点、在宅老人の日用品貸付制度でございますが、先ほど神田議員にもお答えをいたしましたとおり、寝た切り老人九十一名を対象に実態調査をいたしました結果、日常生活用具の貸付及び給付の希望者もすでに把握をいたしておりますので、紙おむつというような希望もございましたので、そうしたものも加えて実施すべく現在検討しております。

質問の大きな第三点、農業対策についてでございますが、小

な第一点の農道の補修費の問題でございますが、現在農業用道路等の補修については農業用施設等補修用材料の交付と小規模土地改良事業で対応しております。この事業の実施については事前に地元農家組合と協議の上、実施しているわけでございます。

補修用材料の交付については軽易の補修に対して交付するものでございまして、当面現行どおりといたしまして、原材料交付で補修できない場合は、小規模土地改良事業を活用していただきたいと考えております。

また、小規模土地改良事業の補助率についても、市単独の補助事業でございますので、現行補助率完全実施という方向で進んでまいりたいと考えております。

第二点の観光農業の推進はできないかということでございますが、観光農業の推進については現在ポピーの花摘み園が実施されているわけでございますが、本市の特産物でございますイチゴについても生産者団体と現在話し合いを進めております。県で行いますイチゴ生産モデル団地設置事業というようなものもございまして、そうした関連において観光農園としてイチゴ園に、出荷時期が過ぎてからイチゴのもぎ取り園として農家収入の向上と観光に役立つように関係者と十分協議していききたいと思っております。

大きな第四点観光対策、その小さな第一点でございますが、養浜事業につきましては、県が国から事業委託を受けまして海岸砂地の浸食防止、養浜事業等海岸地域の保全を図るための海岸環境整備事業が行われているところでございますが、現段階では、県におきまして海底の深さ、潮流、砂の動向等海域調査を実施して

おりました、これが調査結果、分析を待っている段階でございます。したがって、これらの結果が出ましたあかつきにおきまして、この結果に基づき関係機関との協議を行いたいと考えております。

小さな第二点、鏡ヶ浦にございます三つの棧橋についてどう考えるかということでございますが、この三つの棧橋につきましましてはわれわれも昔から親しんでおりますし、また観光の面でも役立ってきたことは認めますけれども、これを修復することによつてこれが観光の目玉たり得るかどうかということについては大きな疑問があるかと思ひます。

その補修費につきましましては、那古棧橋につきましましては市の直営で補修計画を立てております。北条棧橋と館山棧橋の補修につきましましては多額の経費を必要といたします。おそらく三千八百万程度の金額を必要とするのではないかと見積りが出ておりますけれども、そうしたことでございますので、先般開かれました県の行政連絡会議におきましても、できるだけ県の補助が得られるよう要望をいたしております。当局からそれらについて調査するという発言もありましたので、これらを十分考慮し対処してまいりたいと考えております。

小さな第三点、海岸美化の問題でございますが、清掃員の増員につきましましては、現在市といたしましても通年これを実施し、観光対策上海浜の美化に努めているところでございます。

加えて、本年度は台風二十号の影響を受けましたために、清掃に従事する人も例年より増を見込んでおるところでございます。なお、海岸の美化については地域住民の積極的な参加がより好

ましいこととございまして、公の機関と相まって成果を上げることができると思っております。

また、作業効率を高めるための機械の導入ということでございますが、この点につきましましては種々検討を重ねておるところでございます。その中でピーチクリナーの導入を検討してあるわけでございますが、これについては県補助金の交付対象事業との関連もございまして、今後十分に見きわめをつけた上で対処してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終ります。

○二〇番（石井武敏君） 何点か再質問したいと思ひますが、初めて省エネルギーの問題でございしますが、これは私の記憶によればかつて本間市長さんの時代に早く太陽熱の利用ということで、施策の中に取り入れていたという記憶があるわけがあります。公共建物にそれを利用するというのではなくて、各家庭が太陽熱を活用して湯を沸かす。十数万の機械を買うときに一万円ずつ補助する。かなり前から市の施策としてのついていたものがあります。当時は、いまのようにオイルショックがありませんでしたから非常に市民の関心も薄かつたし、そのまま立ち消えになつたということがあります。これは施策としてはすぐれていたけれども、時期的に尚早といひますか、そういうたエネルギーも十分あつたという時代であつたので、その施策としてはよかつたけれども、時代に合わなかつた。

こういつた一つの市の施策について、いままで午前中から関連して省エネルギーの問題で答弁聞いているわけですが、非常に消極的といひますか、将来的に見れば新しく建てた市の建物にそれ

を設置することはあり得るけれども、現在ではあり得ない。こういう非常に消極的な考え方ですが、過去の市長さんが行った施策の評価は、市長はどう評価されておりますか。政治的な施策です。

それから、福祉の關係になります。貸付制度の貸付項目これはさつき四点ほど何か述べられておりましたが、この四つに限つての貸付制度でしょうか。内容的なものをここで確認しておきたいと思ひます。

それから、養浜に關係した観光施策でございますが、県で行つていました調査これが終り次第、この分析を待つて当市の対処方を決めるというような御答弁であつたろうと思ひますが、説明では潮流あるいは砂の動向、海の深さ等々を調査して分析していくということですが、この調査はいつ終ることになつておりまじうか、お尋ねしておきます。こういつた点、市でもすでに四十九年に議決になつてゐる問題が含まれますので、昭和五十四年度、五十五年度の新年度予算ということでかなりの年数がたつてくるわけであります。それでいつこの調査が終るのか、また調査が終つてから一体どうなるんだらうと、單なる答弁でなくて、本當の市長の方針なりを明らかにしていただきたいと思ひわけであります。

それから、海岸の観光施策の中の質問の海岸の清掃器具の導入でございますが、ちよつと私も聞き漏らしている点があつたんですが、御答弁によりますと、新年度購入するように期待していい御答弁だつたでしょうか、どうでしょうか。御質問します。

○市長（半澤良一君） 太陽熱の利用についての御質問にお答えい

たします。太陽熱の利用ということは省エネルギーという広い立場から考えるべきでございます。太陽熱の利用もその一つでございますけれども、もつともつと市民の省エネルギーに対する、省資源に対する心構えの方が問題だらう。そう思ひわけでございます。そして、そういう意味で今後あらゆる機会にそうした省エネルギーに対する市民の感覚を高めることによつて対処すべきだと、そういうふうと考えておりますので、そういう意味で太陽熱利用に対する補助金といったようなものは、私は考えるべきではないというふうと考えているわけでございます。

○経済部長（太田博雄君） 養浜の点でございますけれども、これはいままでもお答え申してまいりましたとおり、昭和五十一年度から県におきまして海浜の調査を実施しているわけでございます。本年中で結論がまとまることになつておりますけれども、最近の情報によりますと、汐入川の左岸に百三十メートルの導流堤が計画されておるといふことと、もう一つは、平久里川の右岸の方に四十五メートルの同じく導流堤が計画されておるといふことを最近聞いておるわけでございます。これも調査の結果の一部ではなからうかと思ひわけでございます。

次に、ビーチクリーナーの件でございますけれども、この機械の導入につきましては、大洗にまいりまして実はこの機械を見てまいつたわけでございます。私の方で見てまいりましたものは総額におきまして一千二百万程度のものでございました。よその市で県の補助をいただいて購入いたしておりますものは、そのような高額のものはいままでもなかつたわけでございますので、特に私の方は県の補助率の二分の一というものを生かすために県とた

いま協議中でございます。したがって、購入いたしたいということを目途に考えておるわけでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 老人日常生活用具の貸付事業の貸付の品目でございますけれども、貸与といたしましては特殊寝台、それから給付といたしましては浴槽及び湯沸かし器、マットレス、エアーマット、腰掛便座その他紙おむつこの六項目でございます。

○二〇番（石井武敏君） 御答弁わかつたわけでございますが、市長さんの答弁の中の省エネルギーの問題で、省エネルギーという問題は要するに市民の省エネ感覚というものをものつと高めなくてはならないんだ、大変大事だ。そういうふうに進めていきたいというところでありますけれども、これはなんか具体的にこういいうに進めるのだという市長さんに腹案があたりでしょうか。もつともそういう御答弁が返ってくるということは、腹案があつてそういう御答弁が返ってくるものと思つて質問しているわけですが。

それから、ただいま御答弁のありました海岸の清掃器具の導入でございますが、これは購入をしたいという御答弁が返つてきました。新年度予算にぜひ盛つてもらいたいと私も思うわけですが、現在の段階では県からの補助が二分の一あるということでございますが、また市の方としても大洗の方に実地視察に行つてらうでございます。一千二百万の機械を見てきたということとであります。そこでお尋ねしたいんですが、県の補助金の補助率の考え方でございますが、これは県の方では限度額としたらどの程度までの限度額を考へておられるか。また機種としての何か選定が果からあるのか、いずれにしても、こういつた機種の選定、メーカーの選定は最近非常に微妙な点が議会の中にもあ

るようでございますので、慎重な選択、選定をやつていただきたいと思つておりますが、まず県の補助率これは限度額幾らまでを限度としておられるか。こういつた点で調査をなさつておれば御答弁をいただきたいと思つております。

それからもう一点、先ほど観光農業についての御答弁いただきました。まして、当市としてもこれから関係者と十分協議をしていきたい。御答弁を承つております。ぜひともそういう方向で関係者と十分な御協議を行ひまして推進方をお願いしたいと思つてわけでございます。

それにかかわる基礎的な資料とか、調査とか、研究これまた必要だと思ひます。当局としては、これにつきましては当市として共通するようなイチゴの栽培とか、あるいは当市に類似した農産物、これは観光農園として自治体で扱つておられるところ、これは県内でなくても、県外でも結構ですが、いままで調査をされておられるでしょうか。また調査をされておるとすれば、いままでどういう形態でやつておられるでしょうか。簡潔に御答弁をお願いしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 省エネの意識の高揚ということはなかなかむずかしい問題ではございますが、また市の行政の中だけでできるといふ問題ではございませんけれども、市としてできる限りのことをしたい。具体的に、たとえば消費生活モニター等におきまして消費者の実態あるいは意見等を把握し、さらにそれに基づきまして消費者問題協議会の有効な活動を期待いたします。市広報等を通じて節約意識の高揚を図る。いろいろな手を打ちたいというふうに考えております。

○経済部長（太田博雄君） 第一点のビーチクリーナーの県の補助

額の件でございますけれども、この補助の対象となりますものは海浜清掃美化事業といたしまして事業費の二分の一が県の補助率ということになっておるわけでございます。ただ今回私の方で要望いたしておりますものは、いままです各市にない多額のものをお願いいたしておりますわけでございます。ちなみに申し上げますと、県内で現在ビーチクリーナーに類するものを七カ所購入いたしておりますわけでございますけれども、大体が二百万、一番その中で大きなものがたしか三百万これがいままですの事業費でございます。私の方で多額になっております関係上、その事業費の二分の一というものが即県でのごんてくださるかどうかということがいま問題になっておるわけでございますが、これもいま強く要望し、また協議もいたしているわけであります。

次に、その機種等でございますけれども、私の方で見えてまいりましたものは、よそさまで購入いたしておるものよりはるかに馬力も多いし、効率のいいものを見ておるわけでございますので、別に県からの機種等の指定はございません。

それから次は、観光農業の点でございますけれども、県下で現行行われております、観光農園を実施しておりますところは全部で三十五カ所でございます。そのうちでイチゴが二カ所、タケノコ一カ所、ナシ九カ所、クリが六カ所、ブドウが八カ所、落花生が四カ所、サツマイモが二カ所、カキが一カ所、ミカンが一カ所、ボビーが一、計三十五やつておるわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） 省エネ対策につきましては、これは省エネ対策としては非常に範囲が広いし、市民がやる範囲も当然限ら

れると思ひますし、市がやる範囲も当然限られると思ひますが、このへんのやり方は種々検討を重ねられて運んでいただきたいと思ひわけでございますが、太陽エネルギーの導入につきましては器具の開発というものもいま行われておりますし、大量生産という面に進んできておるわけでございます。この点に關しましては将来的な展望としてひとつお考えをいただきたいという要望に付しておきます。

それから、先ほど御説明がありました観光の中の海岸の整備、それから養浜事業に關しまして、これは關連になりますが、私は養浜ということで説明を求めたんですが、突堤のことが答弁として返つてきておりますので、いわゆるヘドロを海岸に堆積しないように沖に流すということがいま答弁の中にちらつと出たようでございますので、關連して質問いたしますが、現在県で考えておられる突堤の実現見込みはいかがか。そしてかつて昭和四十九年度三月議會で出されました請願書のこの突堤と、この請願書の趣旨の実現になつてゐるのかどうか、そこをお尋ねしたいと思ひます。

それから、清掃器具の購入でございますが、これは現在県と折衝中であると思われまして、これはうまく折衝していただきたいと思ひますが、こちら側として出す金額、こちらが計画している機械の額はどのへんまで向こうに出す計画をしておられるのか、計画があれば、折衝しているというからもちろん希望、計画というものがあつて思ひますが、どの程度の機械を購入したいというように計画して出されておるか。いまの答弁を聞きますと、大体二百万円前後のところを購入する機械の額としては多いわけでは

ね。当市としてはどうなのかということです。

○経済部長（太田博雄君） 導流堤の件でございますけれども、これは私の方で単年度で仕上げるものかどうか一応確認いたしましたわけでございますけれども、最高で三年ということが言われました。ですから単年度で仕上げるということはないことになるわけでございます。

それと、特に導流堤でございますから、言わばテトラでもいいわけでございますけれども、館山の場合は海水浴場でもございすし、美化等の関係もございすので、一応専門語でW工とかいうものを使いまして、幅も大体二メートルぐらいになるんではないか、またその上に高欄をつけるということでございすから、市といたしましては現在あります棧橋以上の結構なものができらんじやないかということを想像しているわけでございす。

それから、ビーチの額でございすですが、私の方で果に要望してありますビーチの総額は千二百八十万円でございす。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁をいただいたわけでございすますが、観光の養浜にかかわる質問でございすますが、私ちよつと答弁聞き漏らしてしまつたんですが、突堤の場所ですね。場所としては汐入川のどのへんになるわけですか、場所をひとつ明示してください。

それから、農道の補修についてでございます。これは先ほどの御答弁では非常に冷たい答弁が返つてきておりまして、受益者負担をしるというような姿勢が答弁の中にありと見えるような答弁だつたんですが、これは農業用の道路は、先ほど言いましたように一部落七万円の費用で行っている補修分と、それから小規

模事業でやる、大体雑ばくところ三〇％市が持つて、七〇％いわゆる地元が持つという、そういう割合でいままで進んできているわけでございます。新年度の見込みをいま聞きましても、答弁受けましても、いわゆる一部落七万円の補修費は非常に輕易なものを修理する費用であるからあまり上げる必要もない。また小規模事業の補助金も、補助率も現行どおりで考えておられるという事で、そうなりますと、前年度と同じ予算がおそらく新年度の予算に載つてくるのではないかと思いますので、御質問するわけでございますが、たとえば農道の補修費これは一部落七万円ですけれども、これは昭和四十八年から据え置きですつとあるわけでした、すでに昭和五十五年を迎えておるわけです。この間に非常に材料の高騰、セメン、砂利等原材料費の高騰というものがあつたわけです。ですから同じ七万円もらつても、七万円の道路が幅とその長さのものが四十八年当時から比べればそれよりできないわけです。こういうように現実に道路を補修しようとする七万円では非常に計画を削減しなければならないということが具体的に地元につてくるわけでありまして、こういった原材料の値上り分ということを一体どういうふうに市では考えていらつしやるのか。そういう疑問が自然にわくわけです。もうすでに四十八年度から据え置きでございますから、そのへんをどういうふうに考えておられますか。原材料の値上り何パーセントぐらいあると思ひますか。

それから、市の名義で、いわゆる市道でありながら農道に使つてゐる農業用の道路があるわけですね。それが先ほど申し上げましたように八十九キロメートルあるわけですが、そのうち十キロ

メートルはすでに舗装されておりますが、あと七十九キロ残つて  
ある。こういった市道としての受け取り方をして見れば、一般的  
に市道を舗装、改修する場合に地元の負担金が市道の場合どのぐ  
らいであるのか、市当局では寄付をあたいてやつてゐるわけであ  
りまして、市の方で何パーセント寄付しろとかいうことはないん  
ですが、現実の問題として市道の舗装が行われる場合には、ある  
程度地元の負担が生じてきてゐるわけでありまして、私は地元負  
担を取るのがいいとか、悪いとか言つてゐるのではなくて、その割  
合が普通市道の舗装をする場合の割合と、この農業用に使つてい  
る市道を舗装する場合の割合というのが格差があり過ぎるのでは  
ないかというふうに思うわけです。一般的に考えると市道を舗装  
する場合に地元の負担金は何パーセント払つていままでもやつてま  
すか、それをひとつお聞きします。

○経済部長（太田博雄君） 導流堤の場所でございますけれども、  
汐入川の左岸でございます。陸から海の方を見まして左の方でござ  
います。北条桟橋と並行いたしまして百三十メートル出るとい  
うことでございます。

それから、原材料費の比較の点でございますけれども、私の方  
にございます資料によりますと、五十四年十一月までの比較でござ  
いますけれども、U字溝等におきましてはほとんど値の変動は  
ございませんでした。生コン等におきましては一リユーベで約一  
八％の値上りということが調査に出てゐるわけでございます。な  
お、ずり、ダスト等につきましてはむしろ安くつたものもある  
わけでございます。

それから、市道の舗装の件でございますけれども、先ほど石井

議員が申されました延長八十九キロと申しますのは、旧軍用地を  
市の名義に返還されたという道路でございます。現実には農道と  
して生きてゐるわけでございます。

この道路につきましては、砲術学校の跡、洲の崎海軍航空隊の  
跡にほとんどこのものがあるわけでございますけれども、従来か  
らその道路の補修につきましては小規模事業で部落の方にやつて  
いただいておりますわけでございます。そういったわけでございま  
して、市の道路とは申しまして、市の所有ということでございます  
でございます。

それから、寄付の点でございますけれども、ちよつといまここ  
に資料の持ち合わせがございませんので、のちほどお答えさして  
いただきます。

○二〇番（石井武敏君） 農道の補修、改修、整備でございますが、  
これはなるべく早い機会にひとつ見直していただきたいと御要望  
を重ねて申し上げます。

確かに、私の申し上げました市道の中には、いま説明のありま  
した旧軍用地ですか、あるいはそういうことで一般の生活道路で  
はない部分が確かにあるかもしれません。ですからその道の性格  
から言えば、同じ市の指定があつても区別されるべきかもしれま  
せんが、現実の問題として農道を補修してもらいたい、直しても  
らいたいという意見が多々伺われるわけでございます。これは時  
間がございませんので、当局でひとつお調べになつて、どのぐら  
い要望があるのか、現実がどうなのか。そういう点をひとつ御検  
討願いたいと思うわけでございます。



最近、道路が悪くて、生活道路が悪くて困るといのは、もう館山の市街地にはないわけで、ほとんどが過疎地域といえますか、館山市街地の外郭にある地域については非常にいろんな点において遅れをとっているように思うわけでございます。

これは、租税能力に応じたいいわゆる予算の使い方が地域的にどのようなバランスを保つか、これはむしろかしさがあるかもしれませんが、これからは私は市街地から外郭の方にせめて道路、上下水道等は整備される時期であつていいんじゃないか、こういうふうに考えるわけです。ですので、この質問は強く要望しまして終わりたいと思います。

なお、海岸の美化をするための清掃員の増員や、作業能率を高めるための機械器具の購入これはぜひ実現をしていただきたいと思うわけでございます。

また、那古、北条、館山棧橋の補修におきましても、ひとつ今後がつちりと取り組まれていていただきたい。確かに市長のおっしゃるようなどの程度の効果があるか、まだ非常に疑問であるというような答弁もありましたけれども、しかし地元住民にとってはかけがえない橋であろうと思います。

たとえば、こういうことはないと存じますが、取り壊すとか、そういうことが少しでも動きがあれば地元から大変反対を受けるのではないかと思います。それほど地元の住民もこの橋に対しての愛着を持っておりまして、また観光の面での橋の尽した貢献度というものは住民としては評価しておるわけでございますので、その点ひとつよろしく願いたいと思います。

以上で、質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、二〇番議員石井武敏君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後二時三十九分 休憩

午後三時 三分 再開

○議長（石井 正君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一九番議員石井輝久君。

（一九番議員石井輝久君登壇）

○一九番（石井輝久君） 私は、今次定例会に提案されております議案の審議に先立ち、当面する市政の中で最も緊要と思われる八点にわたつて質問しようとするものであります。

五人の質問者の中で一番しんがりですので、議員各位並びに半澤市長さんをお初めとする市御当局は大変お疲れのことと存じますが、しばらく御猶予をいただき、半澤市長の簡明率直なる御答弁を要望し、以下順次質問に入ります。

質問の第一点は、来年度一般会計予算案の編成方針であります。今年度当初予算額八十億二千三百八十七万六千円と比べて総額でおおよそどれぐらいの伸びを見込んでおられるのか。そしてその予算規模はいかにされるおつもりか伺います。

さらに、歳入中主な市税は当年度当初二十六億三千八百余万円これに比べてどのぐらいの伸びを見て、どれぐらいを見込むおつもりなのか。以下国庫支出金、地方交付税、市債についてそれぞれ見通しを質問します。

次いで、歳出面で半澤市政の目玉ともいうべき重点施策の構想を参考のため具体的にお示しいただきたいのであります。

質問の第二点は、市の職員の慣行上の退職年令は六十歳になつておりますが、これと関連して給与などについて伺います。

当市の本年四月現在の職員五百五十名の平均年令は三十九歳〇七月であり、平均経験年数は十八年〇三月、平均給与額は十七万三千六百九十四円で県下最高額を示しております。

三年前の五十一年当時はどうであつたかを見ますと、平均年令が三十六歳〇四月、平均経験年数が十六年〇七月で、いずれも県下一位でありました。

これは三年を経た今日、それぞれ比較して見ればおわかりのとりの伸びを示しており、この傾向は年を追うごとに増加することとは火を見るよりも明らかであると思われれます。もつともこの事實は、他市の職員に比べて当市の職員が豊かな行政経験を持っているベテランであることを示しているとも言えましょう。しかし、いずれにしても年令において県下最高であり、給与においてもまた最高額であることが当市の特徴と言えましょう。

私は、前にも当議場の質疑でこの点に触れたことがあります。が、市長はこのまま放置しておかれるおつもりかどうか、まず伺います。つまり人件費の逐年増高傾向を放置しておくのか、と同時に何らかの歯どめを考える余地はないのかということについて簡明にお答え願います。

次いで、六十歳の退職年令については、次第に時代の趣くところコンセンサスを得られるようになりつつありましようが、そこに何らかの対策が考えられないか。たとえば、課長職の昇格年令を五十五歳に抑えるなり、五十六歳あるいは五十七歳とし、一定年令を超えた場合は後進に道を譲つて管理職を去り、以後は昇給

をストップし、もつばら後輩の指導にあたるとかの創意工夫をこらし、退職年令の低下を図るなど何らかの措置を講じない限り、将来にわたつて財政上のゆゆしい人件費比率の増大となることでありましよう。これに対する市長の率直なる御所見を承りたいのであります。

さらに、仄聞するところによりますと、労働基準法と市の職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例に違反する有給休暇が与えられているそうであります。が、中央、地方を問わずやみ給与、あるいはまた出張等の好ましからざる事態が続出している。昨今、市長は当市の事例についてどのように考えておられるのかお聞かせ願つて、次の質問に移ります。

第三点の質問は地震対策についてであります。申すまでもなく地震はないにこしたことはありません。しかし地震が起らないという保証もまたない以上、さらにまた未然防止策がない以上、地震発生の場合の対策を講じて、被害を最小限に食い止め、市民生活を防衛してあげる以外に方法がないと思うのであります。

そこで、恒久対策として北条海岸を高潮や津波から守るために防潮堤を設けるより県と運輸省に働きかける意思はないかどうか質問します。

すでに、郡古地区の川崎地先は完全といつても過言ではないと思われれるような防潮堤が築かれてゐる。平久里川河口から八幡、三軒町地先にかけても築かれておりますが、これを海岸線に沿つて北条棧橋の方に延長し、津波や高潮から市民生活を防衛するおつもりはないかということでありましよう。

次に、地震発生時に予想される水道管の被害対策等について伺

います。

さきに、三芳水道議会におきましては、地震発生時における水道被害の実態を調査すべく伊豆半島の東伊豆町をつぶさに視察したのでありますが、地震による被害を全体として見るときに、幸いにして関東大震災のような目を覆う大惨事には至っておりません。それはなぜか、五十五年前の大正十二年と比べて家屋の構造の相違に起因する面もあろうかとも存じますし、意外に倒壊戸数が少ない。市民生活に直結する問題は一にかかつて水道にあるといつてもよからうと思われまふ。これが応急対策をどうされるおつもりか、伺います。

次に、関東大震災の大惨事は火災発生によつて惹起されたのでありますが、緊急対策として火災が起こったときどのような火災防止策をとられるのか、具体的な御説明を承りたいのでございます。

さらに、火災とともに最もおそろしいのは心理的なパニック状態に陥ることでありましょう。関東大震災にあつて特筆されるパニック状態の一つとして象徴されているのが大杉栄氏、伊藤野枝さん、また橘宗一という子供でございますが、惨殺されました。そういうパニックをどうしたらいいか真剣に検討しておく必要があるのかと痛感するのであります。当局のこれが対策について承りたいのであります。

地震対策の最後として、マグニチュード七、震度五ないし六これは伊豆沖地震や仙台の地震とほぼ同規模とみてよろしかろうと思われまふが、この程度の地震が館山あるいはこの地方で発生したと仮定した場合、予測される被害状況は水道の損壊も含めて家

屋の倒壊、その他項目を挙げてどのように見ておられるのか、参考のために御説明いたしたい。そしてその復旧対策をお聞かせいただき、第四の質問に入ります。

次は、市立第三中学校の是非を論ずる時代は遠く去つて、いまや新しい学区もほとんど合意に達し、来年度開校を目指して建設も急ピッチで進んでいることは、市民の一人として御同慶にたえず、新校長のもとよりよい教育の効果を上げられますよう期待するものでありますが、さて、この三中の特異な点として、生徒によつては通学距離はきわめて速くなり、バスで通う生徒の場合父兄負担の増大を来し、生徒全体として見た場合父兄負担のアンバランスを招来する事実。また自転車で通学する生徒の場合国道百二十八号線を往復するにしても、あるいはまた真倉方面から館山北条地区に來る道路を往復するにしても、危険が伴うという事実。この二つだけに限つて伺つておきたいと思いましたが、さきに神田議員の質問に対してスクールバスを用いるとの答弁がありましたので、この点に關しての私の質問は省略いたします。

ただ、全市的な観点から、生徒の通学に要する費用つまり交通費の父兄負担のアンバランスを来さないよう格別の配慮を要望しておきます。

次に、自転車道の建設についてありますが、去る三月議会での質問に対して農業基盤整備事業のからみで検討することとでありました。そこで、来年四月の開校時に果して間に合うかどうか、間に合えば幸いです。間に合わないときに暫定措置として仮自転車道とても名づける代替道路の設定を具体的に実現できないのかについて承りたいのであります。開校のあとで事故が発生

すれば学校の責任となるかもしれませんが、昨今のような交通事情を承知の上で自転車通学を許可する以上、教育行政のサイドで完全な事故防止策を講じておかねばならないことは論を待たずでもあります。簡明なる御答弁をわずらわしいのであります。

次いで、現在二中に在学中の二年生は進学を一年後に控えており、父兄ともども一喜一憂の毎日をおくつておることになります。ある生徒は二中に残り、ある友だちは三中に移り友情が裂かれてしまうといった嘆きの声も一部で聞くのであります。全校をあげて三中に収容されるのならこういった悲劇はもろんないわけではありますが、この声に対するとおるの御所見を承りたいと思うのであります。

当局が開いた説明会に、先ほども御説明がりましたが、しぶしぶながら了承した多くの人々がいるという声も聞きますし、あるいはまた積極的に賛成した人もいます。ありますが、いずれにしても具体的に二年生に限って、二中在学の二年生に限って向こう一年間二中に収容しておくことは、事ここに至つては不可能なのか、お聞かせ願いたいのであります。不可能なら一体どのように具体的に分割するのか、お聞かせ願いたいのであります。

質問の第五点につきましては、やはり過去におきまして質問したことがあります。前向きに検討するとの答弁を得ております。要するに尿の汲み取りにあたつて、現行の人頭割は不公平だから、メーターを用いる従量制に切りかえて料金の公平化を図つてはどうかということであります。

鴨川市を含め周辺町村はいずれもメーターによる従量制を採用

してゐるのに、当市だけいまだに人頭割であります。その後の検討の結果をお示しいただき、六番目の質問に移ります。

当市における今年度最大の目玉事業と言われてきました衛生センターの建設についてであります。当局も私も議会側も真剣に研究し、検討を重ねてきた結果として、大量の希釈水が必要としない方式を原則とし、合わせて放流を避ける方式を第二の原則とするがために場内散布方式をとり、スプリングラーで場内に散布するための故に広大な面積の土地を必要とするとして十二万三千平方メートルの土地買収の説明を承つてまいりました。

ところが、この説明が実際には最近になつて逆転してしまつたと聞きますので、あえてここに質問を申し上げます。

これまた、私は質問したことがありました。県の指導方針は放流方式にあるのだから、場内散布方式で進むことには疑義があると申し上げ、さらに場内散布の場合には望まぬと、塩分の被害が発生するおそれなしとしないと発言したこともありましたが、当局はこれを無視して場内散布方式の方向に突走つたのであります。いまに至つて放流方式に変更した理由をまず質問します。

次に、放流するとなると、どこに放流するのか、具体的に御説明を承ります。さらに出野尾地区からどのような方法をもつて放流するのか、具体的に計画をお示しいただきたい。また放流する場合の関係の利害関係人の同意を取りつけてあるのか。簡明なるお答えをいただきたいのであります。

最後に、いままさにスタートしようというやさきこんな重大な変更を来さざるを得ないような事態を招いたことによつて、私は過去において指摘したような危惧の念が拡大し、先行き不安を感

ぜざるを得ないのであります。アタカ工業株式会社の経営状態を含めて、衛生センターの将来の建設の見通しを明らかにしていただくのであります。

質問の第七点は、館山市消費者問題協議会が昨今の消費者物価の高騰にあたつて、市民生活を防衛するためにどのように機能しているかについてであります。

さきに、衆参両院の予算委員会の質疑で、冬に入つて灯油価格の値上りが取り上げられ、通産大臣の答弁は十八リットルかん当たり一千八百八十円見当であり、これは全国の平均でございます。この程度を今後とも期待している旨を強調しておりましたが、当市におきましては十日現在千三百二十円、まさに日本一といつてもよろしいと思われる灯油価格を示しているのであります。市民生活に必要不可欠といつてもいい灯油の価格が日本一とあつては何とも言いがたいではありませんか。市長の御所見を承りたいのであります。

最後の質問に入りますが、この駅前再開発につきましても私は何回となく発言してまいりました。私の記憶では、第一回目の質問に対する答弁で、市長は駅前の商店が個々に近代化に努力すべきであるとして、公的な駅前再開発について一顧だに与えないかの如き御答弁でありましたが、去る三月議会におきましては、館山商工会議所で行っている商業振興計画書策定作業の完了を待ちそれを参考として検討してみたいと意欲的な御答弁をいただきました。私は大いなる前進と評価しておるのであります。

現在の館山の市民消費生活の実態は、わざわざ木更津市まで乗用車で買い物に出かける家族が相当数に上っており、これはとり

もなおさず市内の小売業者に対する一部市民の不信任行為のあらわれと申しても過言ではないと思われ、まことに残念のきわみであると言わなければなりません。

しかも、大型スーパーの進出におびやかされ、戦々恐々としてゐる市内中小工商业者の対抗策として商店経営の近代化、サービスの向上等が焦眉の急と言わなければなりません。

そのためにも、館山駅前の再開発を一日も早く実現しなければならぬと思うのでありますが、館山駅西口の開設を含め市長の御所見を承つて私の質問を終わります。

御答弁によりまして、再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井輝久議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点、そのうちの小さな第一点ですが、予算規模の前年対比、伸び額という御質問でございますが、現在国におきましては、御案内のように財政再建を掲げて超緊縮型の厳しい予算編成を実施する方針でございます。その中には補助金等の積極的な廃止、減額、整理等が含まれております。また地方債の大幅見直しも含まれておりまして、地方債計画、地方財政計画が決定しない現段階では確度の低いものとなりますけれども、伸びはおおよそ五億円、総額は八十五億円程度が見込まれております。

小さな第二点、主な歳入の前年対比についてでございますが、市税については九%二億円余程度の伸び、国庫支出金については九%一億六千万程度の減、地方交付税については六%八千万円程度の増、市債については本年度程度を期待しております。これら

は先ほど申し上げましたように国、県の予算の決定、制度の変更並びに地方債計画、地方財政計画の決定に伴ってそれぞれ増減があるものと思われまゝす。

小さな第三点、歳出面での主な重点施策についてということですが、昭和五十五年度予算編成にあたりましては、従来どおり健全財政の確立を基調といたしまして、市民生活の向上を図るため、住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育の環境づくり、産業の基盤づくりの四点を重点施策として引き続きその実現に努力をいたしたいと考えておりますけれども、さらに本市におきましては、都市施設の整備が立ち遅れている現状でございますので、今後単年度にとどまらず長期的な展望に立つて推進してまいりたいと考えております。

昭和五十五年度の歳出面での主な施策といたしましては、衛生センターの建設を初め道路の整備、城山公園等の整備また船形小学校校舎、那古小学校屋内体育館の建設等教育環境施設の整備、さらに防災対策、農漁業の基盤整備の推進等図つてまいりたいと考えております。その他国の補助金との関係等もありますが、ごみ処理施設、コミュニティ会館、博物館の建設につきましても推進してまいりたいと考えております。

大きな質問の第二の第一点でございますが、人件費の増高傾向を放置しておくのかという内容の御質問でございますが、本市は早くから事務改善は実施しておりましたが、特に石油ショック後は事務事業の見直しの中で事務改善、事務の機械化、民間委託、課の統廃合等々実施する一方、職員の協力を得ながら人件費の増高傾向を抑止するよう努力をしております。

その結果、職員数におきましては、昭和五十年四月当初の六百十人でありましたものが、昭和五十四年四月当初では五百五十人で、その差六十人減となつております。

なお、人件費総額は昭和五十年度を百といたしました場合の昭和五十三年度の指数を見ますと、館山市は百十六・四、県下平均では百三十九・九と、その伸張率はかなり下回つておりまして、県下の最低であります。したがって、現在の方針を今後とも堅持していくつもりでございます。

小さな第二点、退職年金の低下についてでございますが、最近公務員の六十歳定年制が検討されつつあり、昇給の延伸や停止のことが人事院勧告でもございましたので、その内容を十分検討し、国や県、他の団体、社会情勢に適應するよう配慮していかなければならないものと考えております。

小さな第三点、労働基準法では最低与えなければならない日数を定めているものでありまして、市職員の休暇については館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例並びに館山市職員の職務に専念する義務の特例に関する条例に基づいて実施しているものでございます。

大きな第三点、地震対策についてでございますが、その第一点、高潮対策の件でございますが、北条海岸に海岸高潮防止策として防潮堤を設けることについては、県の養浜事業との関連もあり、十分検討すべき問題ではございますが、現在の段階では国や県に働きかける考えは持つておりません。

小さな第二点、応急対策としての水道被害対策でございますが、過去におきます地震調査から見まして、浄水場等構造物は地盤の

選択が比較的容易であることなどから被害例は少ないと言われている。

問題は、配水管でございますが、市内の配水管接合部の構造などは問題点が考えられますので、復旧資材特に継手類を確保し、対処したいと考えております。

なお、水道施設の損壊による断水時の応急措置としては、年次計画として耐震性井戸貯水装置及び可搬式浄水機の整備充実により飲料水の確保に努めてまいりたいと考えています。

小さな第三点、緊急対策としての火災防止並びにパニック防止についてでございますが、大規模地震発生直後には多数の火災発生が予測されますが、建物の倒壊、道路、橋梁の損壊等によりまして消防力が分散され、消火活動が火災発生地全域に及ぶには相当の時間が必要でございます。火災から生命、財産を守るには住民みずからの手による出火防止、初期消火活動による以外に方法はございませんので、まず自主防災づくりを促進いたしたいと考えています。

なお、地震災害時に心理的不安から発生するパニックを防止するためには、行政からの的確な情報提供に努めなければならないと考えています。

第四点、災害時の復旧対策についてでございますが、大規模地震による被害想定のもとに地震対策を再検討したいというふうに考えております。

現在、担当課におきます被害想定では、地震の発生場所及び規模について申し上げますと、冬季夕食時、西の風風速十二メートル、発生場所鎌倉の南西約四十キロ、震源の深さ十から二十キロ

メートル、震央距離北条地区をとりまして、地震の中心部からの距離でございますが七十五キロメートル、マグニチュード七・九、震度六から七。

この場合の損壊は、倒壊家屋が七千二百棟、出火数三十一件、そのうち住民による初期消火が十六件、残りの十五件がそれによる拡大火災が起これというふうに想定してございます。

人的被害につきましては、木造住家倒壊による被害が死者七百五十五人、負傷者千七百四十七人、火災による死者八十名、負傷者百二十名、津波による死者十名、負傷者五名。

水道につきましては、地下埋設管のほか橋梁添加管の切断等により給水不能になることを予想しております。

ガスにつきましては、ガス導管は三分の一破損する。

道路につきましては、通行不能が三十二カ所となっております。以上の被害は、社会変化に伴う修正係数処理による予想でありますので、現在実施中の科学的根拠に基づく基礎調査がまとまり次第、早急に被害想定を策定するとともに具体的な地震対策を検討いたしたいと考えているところでございます。

大きな第四点につきましては、教育長から答弁をいたします。

大きな第五点、し尿汲み取りの従量制と人頭制の料金についてでございますが、人頭制から従量制に切りかえる方向で進みます。

第六点、衛生センターの建設についてでございますが、小さな第一点、場内散布方式から放流方式に変更した理由についてでございますが、処理水を散布か、放流かについては、施設稼働時までに関係者の了解が得られなければ散水方式で運転せざるを得ない事情にございました。しかし建設費、ランニングコストからみ

て放流する方がはるかに経済的であるので、了解を得るために最大の努力を続けるという考えを過去の議会で明らかにしてきたわけでございますけれども、その後幸い関係者の協力が得られる見通しがつきましたので、放流に踏み切ったわけでございます。

放流先及び方法につきましては、地元の了解を得て現在の放流管を利用できるような方向で、藤原川から海へ放流を計画しております。

第三点の将来の見通しについてでございますが、これにつきましては散布が放流に変わったということはマイナスではなく、プラス要素でございます。いい施設ができるものと期待しております。しかし国の財政事情から三カ年事業ということになり、稼働が一年遅れるわけで、現施設の状況からしますと重大なピンチを迎えることになるわけでございますので、今後は事業年数の短縮について各方面への働きかけに努力をする考えでございます。

業者につきましては、不安はないと確信をいたしております。

第七点、灯油の問題でございますが、石井武敏議員にお答えいたしましたように、消費者問題協議会は消費者問題に関する問題点及びその対策について協議しているわけでありますが、灯油の需要期前にいたしまして、協議会として今後の対応策、消費者の意識の徹底等につきまして近く協議を行う予定になっております。

最後に、大きな第八点、駅前の再開発についてでございますが、駅前再開発はかねてから申し上げておりますように、当市にとって大変重要な問題でございます。本年三月館山商工会議所が策定いたしました館山市地域商業振興計画書の中でもいろいろと提言

されております。現在駅前再開発の実現方策を市長公室において検討させておりますけれども、再開発は関係住民の複雑な権利関係を調整し、事業を行わなければならないわけでございますので、その調整手法の検討を進めますとともに、新年度はさらに組織を強化して、住民の理解と協力を得ながら再開発に対して積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 御質問の第四点、市立二中和三中の関連についてお答えを申し上げます。

その一の三中の生徒の通学対策については、御要望の父兄負担については公平を期するように努力をしてまいりたいと思っております。

自転車通学道については、御指摘の農業基盤整備事業による道路が本年度中に完成するということを聞いております。私も現場を見てまいりましたが、東半分は昨年度完成しまして、いま本年度分をやっておりますが、できるじゃないかと思っておりますが、仮りにできない場合は、一・二八号線を主体とした通学路を検討しておりますが、一部横断歩道、その他の点を検討していけば安全が得られるものと考えております。

なお、青柳方面の子供は二中へ通うわけでございますけれども、これも市として裏道、自動車のあまり通らない道が安全で、しかも近い道がありますので、それを通学路として指定し、やはり横断歩道等の安全策を考えていけばいいんじゃないかというようになことを検討を急いでおります。

それから、二中の二年生の分割についてでございますが、これ



については三中の建築が予定どおりに進んでおりますので、全員を四月に収容することが可能であるという見通しが立つてまいりました。したがって、一兩日中に全生徒に対し就学通知を発送したい。そうして御指摘のように一部の生徒が割れて残るようなことがないような十分な指導を個々に進めたい。こういうふうに考えております。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

まず、質問の第一点でございますが、来年度の予算編成の伸びでございますが、これはもちろん国の方がかなり不確定でございますし、これからまた国会審議もございましょうけれども、大蔵省の予算査定も進む過程でございますから、不確定要素があまりにも大きいので確たるお答えをいただけないのは当然でございますしう。

ここで、歳入面で、市税で大体九％のアップ、国庫支出金の九％のダウンあるいはこのとおりかもしれませんけれども、市債で今年度程度、これは別に機会を改めまして具体的な質疑を進めたいと思っておりますので、この点に關します質問は打ち切ります。

それから、半澤市政の来年度の重点施策それぞれ具体的な事例を示してお答えをいただきましたので、これも大體了承をいたしましたして質問を打ち切りますが、ただ一点、前にたしか市長さん一二七号ですか、バイパスの早期実現ということをお発言になつておられたようでございますが、これは来年度市の予算に盛り入れる予算としてのバイパスはないかもしれません。あるいは調査費等であるかもしれないけれども、このバイパスに關しまして、来年度どう取り組まれるのか、着工にまで持つていける見通しを

お持ちかどうか。それを一点だけお伺いします。半澤市政の重点施策のかすかな一つかもしれませんけれども、お伺いしておきたいと思ひます。

それから、第二点目の質問でございますけれども、ただいまいろいろ御努力をされてきて人員も五百五十人によりやく減らしてきた。しかも市の職員の協力を得ながら努力をしてきた。この努力に對しましては、まことに多とするものでございます。

ただ、御指摘申し上げましたように、いくら努力をされても来々年になるとまた平均経験年数がアップされるはずで、それから平均給与額も増高するはずで、さらに平均年令も多少上るんじやなからうかと思うんです。よつぽど若い人を五十人ぐらい採用すれば平均年令はダウンするかもしれませんが、そうでない限り増高傾向は免れないと思うんです。これの歯どめをどうされるのかという質問でしたが、いまの方針を堅持されていくとするならば、この人件費比率が逐年増高していくという傾向は免れない。このように御指摘しておきます。これに關します、簡単に結構です。

それから、提案として先ほどお示した県では降格年令を持つております。総務部長さん御承知でしょう。五十六歳になると降格年令に達する。それで課長職を退く。六十歳までいても結構だが、五条適用とかいろいろございすけれども、そういった簡単ないうと仕組みがございす。こういった仕組みを市で援用しながら歯どめ策を講ずる意思はないのか。御質問の趣旨はこういうことだったんですが、これに關しまして簡単に答えをいただきます。

それから、有給休暇の点はちよつと質問したいこともあります  
が、市の優遇策でございます。市の職員の働きいようにという  
ことでございましょうから、この点に關します質問は打ち切りで  
はなくて、この議場で質疑はこれをもつて打ち切つておきます。

それから、三番目の地震対策でございますが、第一点の高潮対  
策ですが、これはかつて運輸省ではずつと防潮堤を延ばす計画を  
持つていたわけなんです。ところがそれにかわつて六脚ブロック  
ですか、二本か三本出している。あれに変えちやつたわけですが、  
これは努力のしようによつては延ばすことは可能である。私はこ  
う考えます。ただ、先ほど御答弁にもありましたように、また同  
僚の二〇番議員の質疑にもございました養浜事業との確かから  
みが、全面埋め立てとするならば関連が出てまいります。慎重に  
対処されることが必要かと思いますが、とにかく津波とか、高潮  
対策は、この間の台風でもちようど高潮と暴風が重なつて異常な  
事態が発生したことは事実船形地区でもございました。どーんと  
一挙に家をさらつていくような津波対策ということじゃなくて、  
潮位が徐々に上つていくということの高潮、津波対策そういう観  
点からひとつ御検討をいただきたいということで、この点に關し  
ます質問は打ち切ります。

それから、そのほか緊急対策、火災防止これもつともです。  
この点に關しましての質問、バニック対策も情報の提供、行政側  
こういうことで質問は打ち切ります。

マグニチュード私の質問は七、震度五ないし六こういうことで  
したが、御答弁は予測されるマグニチュード七・九、震度は六な  
いし七、それから地震発生予測箇所これと示されましたが、

ここで見られるのはざつとした、どなたの試算か知りませんが、  
死者七百五十五名ございしましたけれども、これも別の機会で  
質疑をすることになるうかと思いますが、東伊豆町の地震地の実  
態では、死者にしてもデータございますけれども、時間がありま  
せんからお示しいたしません。意外に死者、負傷者は少ない。  
船形のようにたて込んだ土地柄でございすけれども、漁村でこ  
ざいます。意外に少なかった。これはまことに喜ばしいことだと  
思います。問題は水道管、この水道管の給水不能個所が随所に  
起こつております。対策としては、一つは幸いにして自衛隊がい  
たということが一点。それから幸いにして水道設備業者の協力体  
制が早くとられたということが一点。これで非常に復旧が早く  
行われた。こういうことでございすので、将来の問題としてこ  
ういうことも含めて御検討をいただきたいと要望いたしまして、  
この点に關する質問は打ち切ります。

それから、二中と三中との問題でございす。これは前向き  
にそれぞれ通学の安全対策、それから自転車道の設定等に御努力  
されているということで、御努力を多とするものでございす。が、  
二中の現在の二年生に対する今後の措置、一兩日中に就学通知を  
出されるということでございす。が、もうちよつと具体的に御説  
明を承りたいと存じます。

それから、し尿の汲み取りのメーターに切りかえる問題ですが、  
切りかえの方向で進んでおられるそりでございす。一日も早く  
その方向で実現をされるように要望して、この点も質問を打ち切  
ります。

次に、衛生センターでございす。これはまた明日も議案の

審議がございまして、ここではそう詳しく質疑はするつもりはございませんが、とにかく私どもは場内散布をしなければならぬということ、私の質問に對しましては十二万三千平方メートルが所要面積であるという御説明を三月議会でいただいたわけです。今回提案されておりますのは、またあした質疑いたします。

十三万三千平方メートル、一万平方メートル三月からいまままで上つてゐるわけです。提案されてゐるのは一万。それから五十二年十二月十八日ちようどいま頃の議会でございしますが、御答弁をいただいたのは十一万五千平方メートル、その都度変わつてきてゐるわけです土地の面積が。しかも、もし場内散布をしないで放流するならば、プラントの施設の所要面積で事が足りるという問題もございまして。この点は余剰面積を有効に将来使うと言へば、あるいは考え方とすれば結構かもしれませんが、その点に關してどうして、所有者がわかつてゐる、土地がここだといふのはわかつてゐる。しかし面積が今回は十三万三千余り、三月議会で十二万三千、去年のいま頃は十一万五千、この三つの違いはどこからきてゐるのか、ちよつと御説明をいただきたいと思ひます。

それから、放流先でございしますが、先ほど出野尾からいまの藤原の施設にドッキングさせて、いまの施設で藤原川を通過して海に流すという市長の御答弁でこれはわかりました。

そこで、私は一つの質問として、出野尾地区からどのような方法で放流していくのか、勾配はどうなつてゐるのか、ポンプアップはあるのか、どのような形で放流するのか、これは御答弁がなかつたので答弁漏れということをお願いいたします。

それから、放流の利害關係人の同意を取りつけたのかということ

とだつたんですが、先ほどの答弁をよくかみしめると、同意を取りつけてありますよということであらうかと思ひますが、この点も簡単に結構ですが、どこと、どこと、どういふ利害關係人の同意を取りつけてあるのかということをも具体的に指示をお願いしたいと思います。

それから、アタカ工業の経営状態を含めて将来の見通しですが、不安はないという市長の御答弁でございましたので、これは明日また改めて議案審議で御質問申し上げますが、ここで経営状態は御質問申し上げますが、これは以上再質問申し上げて、御答弁によりまして再々質問をいたします。

それから、館山市消費者問題協議会、これは灯油が十八リットルかん当たり千三百二十円非常に高いんです。私は消費者問題協議会がずつと置かれてあると思うけれども、機能しているかということは、こうした高物価、異常な高値に對して何らかの措置を講じたのか、あるいは対策を協議したのかということを御質問申し上げますが、ただいまの答弁でいままでは眠つていたけれども、これから協議をするということでございます。その意味はわかりますけれども、早急に何らかの措置を講じて、かといつて値段を下げるということもどうか。何らかの措置を講ずるよう強く要望いたします。一日も早く強く機能されるように特に要望しておきます。

そうして、実は先ほどの質問では、灯油が日本一といつても過言でない価格、高値を示してゐるけれども、これに對する市長の御所見はどうかという質問があつたんですが、これに對する確たる御答弁をいただいていませんでしたので、これは答弁漏れとい

うことでもう一べん御所見を承りたいと存じます。

それから、駅前再開発ですが、いまの御答弁で満足しております。この点はこれで質問を打ち切りますが、私は最後に西口開設を含めて御答弁を承りたいということでございましたが、西口開設について何ら一言も触れておりませんので、この点に関して御答弁をいただきたい。

以上で、再質問を終わります。

○市長（半澤良一君） 国道一二七号バイパスの問題ですが、御質問では歳出面における重要施策ということでございましたので、お答えをいたさなかつたわけでございますが、もちろん一二七号バイパス市政の大きな方向として早期実現に努力をいたす覚悟であります。

今月の四日に、従来促進期成会という木更津以南十一市町村で結成しております行政サイドでの陳情は毎年繰り返しているところでございますが、やはり民間サイドでの住民がいかに要望しているかということ認識していただくことが必要かと思ひまして建設省の道路局長、担当の国道一課長にも陳情をいたしました。また直接この事業を管轄しております関東地方建設局にまいりまして、局長以下関係者を集めまして陳情をいたしたところでございます。

そうしたことを経ました感触では、この必要性を非常に感じているようでございますので、ただ来年度の予算の状況にもよりまされども、早期実現が可能だという、いくらかでも早期実現に近づくような感触を得たところでございます。もちろん今後の努力が必要かと思ひます。

第二点の人件費増高に対する歯どめの問題でございますけれども、先ほど御答弁申し上げましたようにに人事院勧告で昇給延伸とか、停止とかそういった勧告も出ておりますので、そうした社会情勢等を考えながら対処していきたいというふうに考えております。

放流先の了解の点でございますが、これは地元漁業組合と同意が成り立つております。

それから、石油価額についての所見をということでございましたけれども、灯油の小売価額を調べましたところ、十一月では県平均が千三百三十一円、館山の平均が千九百九十五円ということで六十四円ほど高いことになっております。十月におきましても館山は千八百八十九円、県平均が千二百二円ということでございました。そういう点から考えますと、確かに幾らか高いとは思ひますけれども、やはりいろいろ業者の関係もございまして、たとえば業者の連帯感というんですか、団結意識が強いとどうしても高くなる。そうして乱売といひますか、アウトサイダーの少ないところではどうしてもアウトサイダーの多いところと比べますと、やむを得ない価額ではないかと思ひますが、いずれにしても高いということは望ましいことではございませんので、今後消費者問題協議会等を中心として下げていただくような努力をいたしたいと思ひます。

それから、西口の問題でございますが、当然都市再開発の中では西口の問題も取り上げられるようになっていくわけでありまして、○民生部長（鈴木 力君） 新しく設置いたしますし尿処理場の敷地の問題でございますけれども、当初におきましては一応敷地の

面積を十二万二千四百九十一平米というようなことで計画があったわけですが、その後いろいろ検討されました、また地主との間に折衝いたしました過程におきまして、一部につきましてはいわゆる借り受けをしていくという計画がございましたが、その後買い取りをしてくれ、こういう要望等もございました、また西長田寄りの方の一部土地につきましても購入する。こういうことになりましたして約一万平米程度面積が拡大した。こんな関係でございます。

それから、出野尾地区からの放流の方法でございますけれども、これにつきましては出野尾地区から現在の藤原の処理場まではパイプによりまして放流いたしまして、その後につきましては現在のパイプ施設をそのまま利用すると、それによつて藤原川に放流する。こういう計画でございます。

○教育長（安田豊作君） 二中の二年の分割についても少し説明しろということですが、一兩日中に就学通知を発送しますが、その内容としましては五十五年の四月一日から北条地区の生徒は三年になるということでございます。登校のための始業式は四月五日九時に行う。こういう内容の通知を発送する。なお入学式は規則で決まっておりますが、四月七日になる予定でございます。

いろいろ御心配をおかけして、残りたいという意見やなんかが出ましたので、そのとき父兄に理解をいただいた内容について申し上げますが、これはいろいろ話し合つて見ますと、二年生というのは二年間一緒に館山地区の子供といたわけでございまして、たまたま夏休みの終り頃クラブなどで三年生がクラブを抜けて、

二年生がリーダーになるというようになつた際、それがさらに二つに割れるということは、非常にクラブが弱体化するんじゃないかというような心配をした生徒があつていろいろ話題をまいたようでございます。

いろいろ話し合つて見ますと、それが端的には二年生が統合のために分割されるということは二年生が犠牲になるんだ。こういうような意識を持つたわけでございますが、私は犠牲になるんじゃないくて、それは一番得をするんじゃないですかという説明を繰り返しました。その第一が適正規模の学校に一番早く入れるんだ。適正規模の学校は学力、運動とも成果を上げるんだということは十分皆さんが認識しておりました。中学の統廃合については一人も反対はありませんでした。したがいまして、そうした学校に一番早く入れるということが一番得じゃないですか。しかも一番先の創始者になるんじゃないですか。このことは子供の教育の上であるいは一生の間に一番得をする立場にあるんじゃないかということ。

それから、運動クラブが弱くなるということですが、運動クラブが運動の場が二倍にふえるわけでございまして、その運動を繰り返すことによつていままでも以上の力をつけられるんだといううなことを説いて理解を得ておりますので、あとは個々の問題があつた場合には、個々に話し合いを進めて円満にいくようにしたいと、こう考えております。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

パイプでございます。ただいま十二月四日関東地建等々を歴訪されて陳情されたということですが、御熱意のほどを示されま

してまことに結構なことでございますが、仄聞するところによりますと、建設省千葉国道事務所のこつちの担当窓口ですが、来年度予算の中には盛られないんじゃないやなろうかということをちらつと承つたわけでございますが、ただいまの御答弁でそのようなこととはないと思いますが、一応そういうことでございますので、なお一層プレッシャーをおかけになられるように要望して、この点は質問を打ち切ります。

それから、市の職員の退職年令と給与関係は一応この際質問を打ち切ります。

それから、地震に關係する質問もこれで打ち切つておきます。それから、二中と三中の關係ですが、ただいまの御説明で、大休教育長さんの御説明、大体そのようなお答えだろうと予測してありました。ですが、物理的に広くなるとか、いい校舎がおまえないんですよ。マインド。ですから、友情が分割されるとかいうことは、物理的なこともさることながら心の問題です。そういう点でやつぱり内向しているものであることを御理解していただきたく。

それから、さらに北条地区は御答弁によりますと新しい三中に移る。これはわかるんですが、しからば浜新宿の北条、長須賀番地の川の向こう側の人もただいまの御答弁ですと一緒に三中に移る。こういうことに聞えるわけです。これは時間がございませんから、質問を保留しておいていずれ、次の機会といつても来年の四月を控えておりますが、一応この際は質問を打ち切ります。

それから、衛生センターでございしますが、ただいまの民生部長

からの御説明で放流については大体わかりました。パイプでつなぐ。ただつなげば川を伝わつて海にいくんですか、具体的にいうことは、そういうことも含めてお答えいただきたくつたんですが、いまのお答えですと、パイプでつなげば流れていっちゃう。このように理解しますよ。

放流の關係は、地元漁協との合意が得られたということですら、また明日の議案の審議で質疑を続行いたします。これに關する質問は終ります。

それから、灯油価額の値上げで、ただいま市長さんの御所見を含めての御答弁でございすけれども、やむを得ない面もあるうかと思ひますが、確かに高いことは高い。市長がやむを得ないというところで、それだけの答弁では、ちよつと市民生活を守つてやるといふことの上からいきますと、ちよつと言葉汚く言えばそれでは落第ではないかと言いたくなつちやう。しかし消費者問題協議会が近く協議して機能されるようでございますから、その機能された結果を期待したいと思ひますが、どうか市民生活を守つてやるという立場から消費者問題にも真剣に取り組んでいただきたくというのを要望したいわけでございます。以上でございますが、消費者問題に対する市長のもう一べんの御答弁は求めません。ただ一点、放流についての私の理解でよろしいかどうか。これを伺つて、私の理解ということは、先ほどの御説明ですと、パイプをつなげば向こうに流れていっちゃうということでございますが、これはあししたに譲つて、私の質問は時間でございすので、打ち切ります。

○議長（石井 正君） 以上で、通告者による一般質問を終ります。

散

会 午後四時十分散会

○議長（石井 正君） 本日の会議はこれにて散会といたします。  
次会は、明十二月十一日午前十時開会とし、その議事は各議案  
の審議といたします。

○本日の会議に付した事件  
一、行政一般通告質問

